

Japanese
Experiences
48-0302

経験の数々

フォニックス アリゾナ州 アメリカ合衆国
1948年03月02日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

ださい。

神様、この哀れな心を癒してください。おおキリストよ、すべての悲惨さを取り除いてください、私はイエス・キリストの名において祈ります。

神様、弟を癒してください。私はイエス キリストの御名によってあなたに祈ります。

そうか？あなたのものは何ですか…

経験の数々

1 親愛なる皆さん……[テープ欠落]

そこでは、奇跡に次ぐ奇跡が行われました。耳の聞こえない人、口のきけない人、目の見えない人、足の不自由な人——あらゆる人々が癒されたのです。

完全に盲目だった一人の男性が壇上に上がって来て、視力を受け取りました。そして私の後をついて、壇上をぐるぐる回り、通路をそのまま歩いて行ったのです。

また別の盲目の男性も上がって来て、同じように視力を受け取りました。

それから、三、四人ほどの若い女性や少女、小さな子どもたちがいましたが、彼女たちは皆、ひどい斜視で、見るからに痛々しい状態でした。しかし、その場で完全に癒されたのです。

そこには医師が二人立っていて、ちょうど私の右側にいました。彼らはその様子を確認し、患者を検査し、注意深く見ていました。そしてマイクの前に来て、「**確かに完全に見えるようになっている**」と証言したのです。

その二人は医学博士で、そのうちの一人は、カリフォルニア州サンフランシスコの専門医でした。

2 ですから、神は神なのです。

神は今もなお偉大な「わたしはある (I AM)」であって、「わたしは かつてあった (I was)」ではありません。

今この時におられるお方なのです。

そして神は、信じる者を癒すために、いつもここにおられます。

しかし、癒されるのは信じる者だけです。例外はありません。

あなたは、それを信じなければならないのです。

もし——

神が今日の午後、ここであなたに許されて、たとえあなたが起き上がり、足

の不自由な状態から癒されて、この壇上を歩き回ったとしても、

その後、ここを去ってから疑いと不信が心に入り込めば、その状態はまた元に戻ってしまいます。

さらに、ここを去ったあと神に仕えずに生きるなら、

もっと悪いものが、あなたのもとに戻って来るでしょう。

それは真実です。

だからこそ、あなたは一生のあいだ、敬虔に神に仕え、

心を尽くして神を信じ続けなければならないのです。

3 さて、今日は午後に十分な時間があります。というのも、今日の午後は、この建物にいる皆さん全員のために祈るつもりだからです。時間があるのです。

そしてフェニックスを去る前に、ここにいる一人ひとりのために祈りたいと思っています。

ですから、私はあまり多くは話しません。時間を祈りに使いたいのです。

ここには良い説教者がいます。立派な働き人たちがそろっています。彼らは説教します。

私は、そもそも説教者ではありません。

ですから、今朝の礼拝で彼らが語ったように、これらの兄弟たちが皆さんに語ってくれるでしょう。

ところで、今朝、教会に行かれた方、建物中で手を挙げてみてください。

——それは素晴らしい。

では、今夜も教会に行くつもりの方、手を挙げてください。

——それも結構ですね。

ただ、三分の一ほどの方が、行くつもりがないようですね。

ぜひ今夜は教会に行ってください。

必要がありますか。なるのを楽しみにしています... 深淵が深淵を呼び求めるとき。今、あなたは信じています。心から信じています、あなたは大丈夫です。さあ、あなたは彼に仕えに行きましょう...?... あなたは... 神のご加護がありますように、お父さん。神はあなたを愛しています。それは... 良くしてください、親愛なる兄弟。主があなたの勇敢さを祝福して下さいますように。

何かに対して注意を促されたことはありますか?あの可哀想な小さな女性。よし。皆さん、頭を下げてください。

神様、目の悪いこの女性を憐れんでください。信仰は聞くことによって生まれます。そして彼女は今来て、何かが起こると信じているので眼鏡も外しました。許可してください、お父さん。彼女が失望せず、イエス・キリストの御名によって癒されますように。神のご加護がありますように。

神よ、私の妹を憐れみ、イエス・キリストの御名によって彼女を癒してください。うまくいくと信じていますか?

神様、腎臓疾患に苦しんでいる弟を祝福してください。彼が元気になりますように、お父さん、もう気にしないでください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。さて、あなたは元気になると信じていますか、ハニーボーイ?えッ?よし。

147 神よ、この関節炎を患う私たちの兄弟を憐れんでください。彼がこの建物から出て、踏み鳴らし、飛び跳ね、飛び跳ね、神を賛美しますように。私はイエス・キリストの名において関節炎を叱責します。行ってください、信じてください、先生。喜びながら出かけなさい、あなたはそれを手に入れるでしょう。

おお神よ、私たちの妹を憐れみ、この癌から癒してください。イエス・キリストの御名において、私はそれを尋ねます。神のご加護がありますように、お姉さん。今、心から信じていますか?神の栄光について必ず証言し、人々に伝えてください。

神様、今列を通過しているこの親愛なる、年老いた、打ちのめされた母親を癒して下さいますように。私はイエス・キリストの名において彼女に手を置きます。

神よ、私たちの兄弟を憐れみ、父よ、イエスの御名によって彼を癒してください。

神よ、私たちの妹である父を憐れみ、イエスの御名によって彼女を癒してく

...

さて、皆さん、たとえ長い間待っている人もいるとしても。この女性と少しお話をさせてくださいね？

お嬢さん、神のご加護がありますように。子供は何人いますか？二人の小さな子供。わ、わ。ご主人はここに一緒にいますか？神のご加護がありますように、お姉さん。私は.. 神に聞いてみれば元気になると信じていますか？これまでずっと待っていたんだ。そして親愛なる妹よ、ここに私の小さな本“イエス キリスト、昨日も今日も永遠に同じ”を一冊お持ちですか そのうちの1 つを読んだことがありますか？よろしければ彼女に渡してください..?…そして、体重わずか40ポンド、結核を患う女性だった小さなジョージ・カーターの証言を読んでほしい。そして今、彼女はミルタウン・バプテスト教会の私のピアノ奏者です。彼女は約145、50ポンドです。さあ、信仰を持ちなさい。心から神に祈るつもりです。

145 親愛なる神よ、今日の午後、そこにあるあの哀れな光景を見下ろし、あの小さくて痩せて繊細な女性があの場所で転がり回っていて、今ほぼ死んでおり、肺がなくなりそうになっているのを見たとき、なぜそうなったのかわかりません。医師たちはできる限りのことをしました。彼女は療養所にいるんだ。そして、父よ、彼女には私の注意を引く何かがあります、彼女の哀れな表情、なぜなら彼女は誠実だからです。彼女は、何かしなければすぐに死ぬことを知っています。おお神よ、私は懇願します。ああ、あなたの前に、私は心からあなたに尋ねるために頭を下げます。神の天使よ、その夜部屋に入ってきて、私にこれらのことを話してくれたあなた.. 私はそれに忠実に生きようと努めてきました。ああ、どうかこの可哀想な小さな女性を憐れんでくれませんか。あなたの偉大な力を示してください、親愛なる神よ。人々があなたを信じるためにそれを見なければならぬというよりも、あなたの栄光と、この貧しい女性の人生における子供たちのためにです。ああ、彼女を助けてください、親愛なる神よ。私が心から、魂を込めて、あなたが彼女を元気にしてくれるように呼びかけるとき、あなたの僕の祈りを聞いてください。許可してください、お父さん。あなたのしもべが彼女から連絡を受けますように。今、彼女は体重が増え始めており、健康になっています。ああ、これを許してください、お父さん。彼女は生涯あなたに仕え、許される時はいつでもこのことを証言します。この哀れな女性の命を救ってくれるなら、感謝の気持ちを示すためにできることは何でもしてください。私たちの主イエス キリストの御名によってそれを尋ねます。アーメン。

146 小さな女性、私は.. 君には何か好きなのところがある。そして私は.. 言う

どこでもいいですから、教会に行ってください。

日曜日に教会へ行くことを、決して欠かしてはいけません。

……祈禱会のためにも、です。

4 そして、ここにいる小さな教会を持ち、苦勞しておられる皆さん。

私からの助言はこうです。

キリストの御業のために、できる限り忠実に、自分に与えられた務めの場に立ち続けなさい。

そして、自分たちの牧師を支え、そこで行われているすべてのことを支えてください。

——すべてはキリストのためです。

そうするなら、神はあなたがたを祝福されます。

神を敬う唯一の道は、互いを敬うことです。そうでしょうか？

もし、誰かに自分のことを良く言ってほしいなら、

まずあなたが、誰かのことを良く言いなさい。

そうすれば、相手もあなたのことを良く言うでしょう。

「あなたのパンを水の上に投げよ。そうすれば、やがてあなたのもとに戻って来る。」

先日カナダで、ある兄弟がこう言いました。

「そうです、ブラナム兄弟。バター付きで戻って来ます。」

それはその通りです。

水の上に投げれば、バターを塗られて戻って来るのです。

それが神の方法です。必ず返って来ます。

だから——

自分がしてほしいと思うことを、まず他の人にしなさい。

それは、本当に良い生き方なのです。

5 さて、ここで少しだけ時間を取って、とても大切なことをいくつか説明したいと思います。

私が思うに、あちこちの集会で働きが妨げられてしまう理由の一つは、滞在時間が短すぎることです。

私は一つの場所に、十分長く留まることができません。

たいていは二日、三日、せいぜいそのくらいです。

本当は、集会は三十日くらい続けるべきなのです。

それは長く聞こえるかもしれませんが。

でも、私はこういうことに気づきました。

一日滞在するごとに、次の日には人が増え、新しい情熱が生まれるのです。

毎日、毎日、積み重なっていく。

そして、その結果として起こる癒しは……

もう、比べものにならないほど違うのです。

ちょうど、ここフェニックスでの集会のようなものです。

日曜日が一回あると、次の日曜日に私が戻って来る前に、悪魔が人々の思いをかき曇らせる時間を持つてしまう。

その通りです。

だから、これは一気に取り組まなければならないのです。

打って、打って、打ち続けなければならない。

釘を少し打って、そのまま立ち去り、子どもたちがしばらくそれで遊ぶのを許して、

次の日曜日に戻って来て、また少し叩く——

す。ただし、ジェフアーソンビルの郵便私書箱 325 にある Branham Healing Campaign に郵送すると、使用方法が記載された布が送られてきます。

143 毎朝9時に、手を心臓の上に置き、祈りを込めて布を最初に着、衣服の内側の心臓の上に置き、手を心臓の上に置き、9時に祈ります。午後12時と3時。あなたのすべての欠点を互いに告白する；隣人を呼び、祈り、祈禱会を開きます。元気になるわ。ほら？指示はあなたに送られます。私の名前、インディアナ州ジェフアーソンビルを送ってください。そうすればわかります。

よし。頭を頭を下げてください。父よ、ここに座っているこの親愛なる白髪の母親を癒してくださいますように。キリストを墓からよみがえらせた神の力が彼女をこの車椅子から救い出し、イエス・キリストの御名によって彼女のためにこの祝福を告げるように、彼女を良い女性にして下さいますように。アーメン。神のご加護がありますように。神のご加護がありますように、お姉さん。神のご加護がありますように、兄弟。

待つて、そうします…ここでちょっとだけ。この可哀想な女性は気を失いました。ああ、私の。神のご加護がありますように、お嬢様。あなたがそこに横たわっていたことは知っています。さあ見て。あなたの愛する心に神のご加護がありますように。あなたはまだ若いだけよ…そして、あなたは自分が—このまま最後の1時間横になっていることを知っています。ああ、私の。彼らがそうしてくれることを私は願っています…私が手を伸ばしてあなたのためにできる何か、ご存知のように…ここを引き出して、「“ここです”と言えるなら。見えますか？”そしてそれをあなたから捨ててください。ほら？それができればよかったのに。でも、私がか知っていることであなたを生きかしてくれるものはただ一つだけです、お姉さん。そしてあなた—あなたはとても、とても…[妹はブランナム兄弟と話します。]だからこそ、その信仰はあなたから引き出されていたのです。今、私たちは正しい場所に到達し始めています。

144 去年の冬、私がいたとき…彼女はアーカンソー州ブーンビルにいました…？…私がいたとき、彼女はアーカンソー州ブーンビルにいました…どこにあった？アーカンソー州コーニングにて…あなたたちはアーカンソー州出身ですか…この女性はそうでした。そして彼女は、いつか神が私たちに会わせてくださるよう祈りました。そして—そして—そして誰かが外に出て彼女をここに連れてきました。今ここにいるの、お姉さん？アリゾナ州スーペリアにて。そして神はそれを許されました。今がその時だと信じていますよね？小さな、かわいそうな小さな女性がここに横たわって死んでいます。それは確かに確実だった…？

りません。ここを見ろ ハニー。建物内に医者がある場合は、自由に診察できます。駆け下りろ、恋人。あなたが医者なら、彼の小さな目を見に来てください。彼らは少し前にここに立って造粒されました、ピンク色です。

“主を賛美しましょう。” 主を賛美せよ。

彼らは病気だったのか、兄弟だったのか？彼らは兄弟で、二人の小さな男の子でした。[女性は言います、“そして彼らの妹はそれを持っています。彼女はそこにいる。”] そうですか。アーメン。シスターではどこに住んでいますか？そうか？まあ、彼らは確かに信仰か何かで育てられました。まあ いいよ。それは... ほら、子供をあるべき姿で育ててください。そうか？

142 彼女ー彼らの母親はー2月に喘息が治ったと感じていました。あれはここフェニックスだったのか？ここフェニックスで喘息が治りました。そこにいるわ。ほら、友達？

別れは私たちを置き去りにします

足跡は... [Blank. spot. on. tape.] 時間です。

(そうですか?)

フットプリント、それはおそらく別の、

人生の厳粛なメインを航海し、

孤独で難破した兄弟のために、

見て、また勇気を出そう。

天の父よ、この妹が勇敢な心であなたを尊敬して癒しを求めてやって来るので、この妹を癒してくださいように。イエス・キリストの御名によってそれを許して下さるよう祈ってください。

父よ、このハンカチと、イエス・キリストの御名によって体が癒された民を祝福してください。

ところで、「忘れる前に」と言ってください。ここにいる何人がハンカチを祈りたいと思っていましたか？ここで何人の手が 1 つを望んでいたかを見てみましょう。説明しましたよ。ほら？なんで、今私に手紙を書いてくれるの。ここにはハンカチは入れないでください。なぜなら、私はそれを祈ることができないからで

そんなことはできません。

その釘は、一気に打ち込んで、木にしっかり食い込ませなければならない。ぐっと、奥まで打ち込んで、固定するのです。

6 それと同じことが、信仰にも言えるのです。

信仰は、人々の中にしっかりと固定されなければなりません。

人々は、ある日曜日に少しの時間だけここへ来て、落ち着きもなく、「自分は祈ってもらえるだろうか？」

そんなことばかり気にして、

何を求めて来ているのかも分からないまま、祈りの列を急いで通り抜けてしまいます。

そして次の週になると、批判的な人たちの中に入って、こう言うのです。

「いや、あんなものは何でもないよ。ジム・ジョーンズの奥さんも祈ってもらったけど、少しも良くならなかった。」

それはその通りです。

それはジム・ジョーンズの奥さんのためではなかったのです。

それは、信じるあなたのためなのです。

これは信じる者のためのものです。

信じる者だけのためなのです。

覚えておきなさい。

もし信仰がなければ、それはあなたに何の益ももたらしません。

さて、そもそもこの賜物は、

今私がしているような、こうした大きな講堂での集会のために与えられたものではありません。

それは、神の完全なご計画ではないのです。

神のご計画は――

もし私がここに数週間とどまって、すべてを説明する機会があるなら、

それは啓示によって来る、ということです。

夜であれ、昼であれ、

私がこの御使いに会うとき、彼は私をある場所へ遣わします。

彼はこう言うのです。

「あなたは、その場所へ行きなさい。」

私は、その場所をそれまで見たことがありません。

7 では、分かりやすいように、ひとつの例えを挙げましょう。そうすれば理解できると思います。

彼は――

私は、今ここに立っているのと同じくらい自然な形で、ある場所へ行くのです。

たとえば、門を歩いて行くと、赤いセーターを着た女性が玄関で私を迎える。

庭には、古い鍬(くわ)が一本、地面に置かれている。

門を入るときに、それが目に入ります。

家の中には、洗面台の上に聖書が置かれていて、

そして、体の不自由な人がベッドに横たわっている。

さて、私はその家へ行き、やがてその場所を見つけます。

そして実際にその家に行ってみると、

確かに、庭には鍬が置かれています。

そうです、赤いセーターを着た女性が玄関で私を迎えます。

私は中に入ります。

父なる神よ、私たちの兄弟をイエスにおいて癒してください。.. [テープ上の空白のスポット]...?...彼女は終わった。

139 言ってください、友達。信仰について話してください、この小さな男の子はピンクの粒状のまぶたを持ってここに立っていました。彼らは彼から姿を消した。私は彼を人々の前でここに育てることができます。そこです。彼の目を見ろ。ほら?完璧にクリア。ここプラットフォームに立っている顆粒状のまぶた。友人たちよ、それは本当だ。神がここどこかに立っているのを知っていますか?まさに神の天使。

そこに横たわっているあの病気の男を見せてください、ハニー。少し前まではピンク色だった目を彼に見せてください、そして今、目は透明です。

先生、小さな男の子があなたの証言に来ました。

ピンクの粒状のまぶたを持つ少年、フーパー兄弟は、今すぐに治りました。

さて、あなたがこれをどれだけ信じているかはわかりませんが、これが真実でなければ、私が前に立っている神が私の命をここに立たせてくれるなら。ちょうどそのとき私がその小さな男を見ると、ピンクの場所が彼の小さな頭の真上に上がり、彼から消えていきました。それは本当です。

“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。

神様、親愛なる妹を癒してください。彼女が今喜びに行き、ナザレのイエス・キリストの名によって癒されますように。アーメン。神のご加護がありますように、お姉さん。そしてあなたはそれを手に入れるでしょう。..?...

140 水を持った小さな女の子。(わかった。) 信じますか、姉さん、私が神に尋ねたら、神がそれをやってくれるでしょう?親愛なる天の父よ、私はこの愛らしい少女に手を置き、あなたが彼女を癒して下さるよう祈ります、神よ。彼女がこの時間から修繕を始め、頭が下がって正常になりますように。そして子供は..普通の子供になる方法です。私たちの主イエス キリストの御名によってこの祝福を求めます。アーメン。さて、疑わないでください。あれはあなたの赤ちゃんですか?あなたの妹の。彼女はもう元気になると信じていますか?彼女から聞きたいんだ 姉さん。彼は兄弟です。[テープ上の空白部分]

141 おお神よ、あなたがこの赤ん坊の顆粒状のまぶたを叱責して下さるよう祈ります。悪魔よ、イエス・キリストの名において彼から出てきてください。そして、その人は残りました。ここを見てください。彼の目はまったくピンク色ではあ

137 オレゴン州の施設から来た 5—7 についてお話ししましたが、そのうち 5 人はカリフォルニア州の健康診断に合格しました？それを覚えている人は何人いますか？彼らの写真がそこにあります。私の一の中に、それを見せるために私の手の中にあります。ああ。それを横にマークしてください、治りました。オレゴン州の検査に合格し、医師たちはカリフォルニアを經由して帰宅した。生まれつき耳が聞こえず、口がきけない…

ああ、彼は素晴らしい人ですよ？確かに。神を讃えましょう。聞こえますか？聞こえますか？聞く？アーメン。

ありがとう、兄弟。よし。皆さん、祈りながら頭を下げてください。

父よ、イエス キリストの御名によって私たちの妹を癒してください。

神よ、あなたが主イエス キリストの御名によって私たちの妹を癒してくださいよう祈ります。アーメン。

神よ、イエス キリストの御名によって私たちの妹を癒してください。

親愛なる神よ、イエスの御名によって私たちの妹を癒してください。

神様… [テープ上の空白部分] 彼に慈悲を、そして彼の体を癒してください。… [テープ上の空白部分]

138 ナザレのイエス キリストの御名において。あなたが今持っている結核を吐き出してください、先生。奇妙な感覚ですよ。神の天使が近くに立っています、兄弟。またしても自分の日が短いことに気づきます。あなたは一熱も出ていて、灼熱感もありました。心配するな。信じに行きなさい。それならもう元気になると信じていますか？イエス・キリストの御名によって、あなたはそれを手に入れるでしょう。彼はどこに住んでいますか？グレンデール。さて、疑わないでください、先生。あなたが運転手ですか？ありがとう、先生。待っていてくださったあなたに神のご加護がありますように。

父よ、私はイエス・キリストの御名によって、あなたが彼を癒してくださいよう祈ります。疑わないでください、先生。信じに行きなさい。

神よ、この女性を癒してください、父よ、イエスの御名によって祈ります。

そして父よ、この人を癒してください、イエス・キリストの御名において、父よ、私はあなたに尋ねます。

しかし——

聖書が洗面台の上に置かれていないのです。

それは、机の上に置かれています。

その時、私は

「主はこう言われる (THUS SAITH THE LORD)」

とは言うことができません。

誰かが、自分では何も分からないままに、

その聖書を手に取り、

それを洗面台の上に移すまでは、

私は何も語ることはできないのです。

しかし、それが起こった瞬間——

あなたは立って、

「主はこう言われる (THUS SAITH THE LORD)」

とすることができるのです。

…… [テープ欠落]

8 ある人が私のところへ来て、こう言います。

「ブラナム兄弟、私は良くなるでしょうか？」

——私は、「そうなると信じていますよ、姉妹」としか言えません。

また別の人が来て、

「この人はどうでしょう？」

「ここにいる叔父が…」 「私の家族が…」

——もう、次から次へと来るのです。

もし、そういうことをいつも頭の中に抱え込んでいたら、人は簡単におかしくなってしまいます。

(分かりますか?)

ほんの数時間もあれば、精神的に参ってしまうでしょう。

ですから、私はそれらのことについては分からないのです。

しかし、このような大きな講堂での集会を許している理由は、非常に多くの人々が集まっているからです。

この御使いが、私をあるケースへ遣わすことは、実はそれほど多くありません。

ですが、私はこういうことに気づきました。

ひとつのケースへ遣わされるとき、そこで現される神の栄光は、十五回の講堂集会よりも大きいのです。

なぜなら、

その時、私は

「主はこう言われる (THUS SAITH THE LORD)」

をもって行くからです。

そして――

その通りのことが、そこで起こるのです。

9 聞いてください。今日は時間が十分にあります。

ですから、ひとつの実際の出来事をお話します。

それで、皆さんにも分かっていたいただけると思います。

これは、ごく最近に起こったことです。

名前もお伝えしますから、必要なら書き留めてください。

親愛なる父よ、この少女は生まれつき耳が聞こえず、口がきけないのです。私たちは、彼女が言語や聴覚について何も知らないことに気づきました。しかし、彼女にそれを許可できるのはあなただけです。さあ、助けてください、親愛なる神よ。この聾啞の精神に対して私が力を持つよう助けてください。親愛なる神よ、イエス・キリストの御名においてそれを与えてください。

聾啞の霊よ、イエス・キリストの名において少女から出てきてください。

[ブランナム兄弟が手を叩きます。] 聞こえますか? 彼女はそうではありません。...? ... さあ、頭を下げてください。アーメン。あなた。ほら? アーメン。[少女は言います、“アーメン。”] とても良いわ ハニー。パパ。[“パパ。”] 頭を上げろ。生まれつき耳が聞こえず、口がきけない。ここで見てください。聞こえますか? [“聞こえています。”] [ブランナム兄弟が拍手] 聞こえますか? [“はい。”] 聞こえますか? かわいい小さな女の子。アーメン。[“アーメン。”]

135 さて、それが見えますか? 今、あなたに伝えたいことがあります。時計。何が起こるかは次のとおりです。ほら、それは.. 皆さんがこれに気づいたかどうか知りたいです。私たちは会議を終了し、会議に入ることに決めています。私が霊について尋ねたり叱責したりした後、私はいつも数分間完全に沈黙していることに気づきましたか? 会議中にそれに気づいた人は、あなたの手を見てみましょう。それに気づいたか?

さて、これがそれです。その時に繰り返さなければならない言葉が3つあります。ほら? そしてそれは聖書の三つの高尚な言葉です。地球上の定命の者はそれを知りません。ほら? そして、私がそれを尋ね、その低下を感じると、その精神と引き換えに、それは再びある場所に揺れます。すると...? ... 治りました。それが私がそう言うのを聞く理由です。ほら? そういうことが起きるのです。

136 さて、私がそうしたのは、あなたがそれを一線から通過することについて私に質問し続けないようにするためです。だからそれは本当です。さて、私が叱責を求めるとき、私は数分間立ち止まって、主の天使が私に繰り返すように言ったこの3つの言葉を繰り返すことに何度も気づいたと思います。そして、それが戻ってきたと感じたら、それが終わったことがわかります。

それが私たちと一緒にこの女の子に起こったことです。それが、私がそれについて何も言わなかった理由です。なぜなら、私は彼女―彼女が癒されたことを知っていたからです。彼女から力が消え去った。さて、もちろん彼女はスピーチが何であるかを知りません; 彼女は聴覚が何であるかを知りません。彼女はただこう始めなければなりません..

ほど。なるほど。よし。あなたが何であれ..

よし。さて、私たちが来ている間、誰もが今信じています..

ガルシア兄弟、ここにいる兄弟、あなたの名前はわかりません。あなたが大臣だとは知りませんでした。バラード？兄弟よ、皆さん、さあ、ここまで降りてください。アウトロー兄弟も皆さんも、この人たちのために心から祈ってください。そして、彼らが通過するように励ましてください。さて、兄弟よ、あなたはここに立って彼らの病気を呼び、検査します。ありますか..

父よ、イエス・キリストの御名によって兄弟を癒してください。祈ります。

神よ、私たちの主イエス キリストの御名によって、この哀れな盲目の女性を癒してください。

慈悲深い親愛なる。どれくらい目が見えなくなっていましたか？3年間。お姉さん、そのの明かりを見上げてください。ライトが見えますか？彼らを見る？さて、このの明かりの方を見てください。今、あなたは視力を手に入れることができると信じてください、そうすればあなたはそれを持つでしょう。彼女と一緒にいますか？奥さんだ？

133 おお神よ、祝福された父よ。この可哀想な女性は癒しのためにここに立っています。今慈悲を。そして、これからすぐに彼女の姿が現れますように、お父さん。彼女がこれらの光を見ることができるようになりますように。そして彼女はイエスの御名によってあなたの癒しの証人を立てるでしょう。アーメン。

しばらくここに座って、私が彼女を見守れる場所にいてください。それからすぐに彼女を確認します。

さあ、頭を下げてください。ここに聴覚障害のある女性がいます。[テープ上の空白部分]

神は私の妹を祝福し、イエス キリストの御名によって彼女を癒してください。アーメン。

134 ちょっとだけ。ここでこれを試してみます。あそこで一緒に戦っている二人の霊を感じます。この女の子は耳が聞こえず、口がきけない..？…私にとっては。彼女は聴覚や言語が何であるかを知りません。さあ、頭を下げてください。誰もが本当に敬虔になってください。彼女に理解してもらえるかどうか見てみましょう。

私は母の家にいました。

こういうことは、実はよく起こるのです。

私は部屋の中で祈っていました。

家には戻らず、そこに残っていたのです。

ただ一人でいたかったからです。

心に、祈らなければならないという重荷があったのです。

皆さんの中にも、

そんなふう感じたことはありませんか？

私は祈り始めました。

そして、ベッドの上に横になって……

そのまま眠ってしまったのです。

目が覚めると、

時計を見ると、おそらく午前二時ごろでした。

しかし、その重荷はまだ消えていませんでした。

私は、また祈り始めました。

今度は床にひざまずいて祈っていました。

そして、ふと、部屋の隅の方を見たのです。

私たちは、とても貧しい家庭でした。

母はたいてい洗濯をすると、それを家の中に持ち込み、

椅子の上に積み重ねて置いていました。

女性の方なら、そんなことをしたことがあるかもしれませんね。

部屋の隅に、洗濯物を山のように積んだ椅子が置いてあったのです。

10 私はこう思いました。

「かわいそうに、年老いた母だ。あそこに洗濯物があるな。」

部屋の隅に、大きな白いものが見えたのです。

「まあ……」と思いました。

そして、そこに洗濯物があることに、ふと気づきました。

それまで気にも留めていなかったのですが、

その洗濯物が、まるで空中に浮かび上がるように、こうして動いているように見えたのです。

私は、

「部屋が暗いせいだろう」

そう思って、目をこすりました。

すると――

私は気づいたのです。

自分が洗濯物の方へ行っているのか、

それとも洗濯物の方が自分に近づいて来ているのか。

白っぽい何かが……。

やがて分かりました。

それは洗濯物ではなかったのです。

部屋の隅にあったのは、

白く、霧のような雲でした。

そして、それが――

私の方へ近づいて来ていたのです。

さて、よく覚えておいてください。

クの女の子で、…

よし、姉さん。それでいい。そういう信仰を持つべきなのです。戻ってきたのを感じた。あなたが降りたとき、それはあなたから離れました…ここから出てくると、奇妙な感覚、奇妙な感覚がありますか？そうだったんだ。

それは彼女をそこに置き去りにしました。こうやって戻ってくるのを感じました。それは…さて、それは奇妙だと思うかもしれませんが。あなたは彼女を見て、私が正しくないかどうかを確認します。

“主に感謝します”皆さんとしましょう。

131 言っておきますが、そのビジョンを見るにはカトリックの人々が必要です。ほら、これがそれです。カトリック教徒は…私の民はカトリック教徒です。私の母…むしろ私の父。私たちは司祭の言うことが正しいと信じるように教えられています。そして、これがここにある場所です。ほら、彼らは私を信じなければなりません。彼らは神を信じています。神を信じる人は何人いますか？皆さん。確かに。さて、神の能力には疑問の余地はありません。これは、天使が私に話しかけに来るかどうかです。ほら？そしてカトリック教徒は司祭の言うことが正しいと信じるように教えられます。そして、これらのこと、これらの奇跡のいくつかが実行されるのを見ると、彼らは癒され(それだけです)、それを心から信じます。そして彼らは…彼らはそうします。

ちなみに、私の叔母―私の大叔母はオンタリオ州モントリオールに修道院を設立しました。

さあ、皆さん、頭を下げてください、その間に私たちは…

今、私たちはどこまで落ち込んでいますか？あと何回祈らなければなりませんか？手が上がるのを見てみましょう。ねえ、私―私はいつももって得ています。いつも増えてる。さて、兄弟、何時か見てみましょう…今夜、教会に行きたいと思っている人、祈ってほしい人、教会に行こうとしている人は何人いるでしょうか。今夜、手を挙げて教会に行くのを見てみましょう。

132 ああ、私の、兄弟。これについては何かしなければなりません。そうだね。そこにはあなたの民もいますよね、兄弟たち、牧師の皆さん？あなたもそうだと思います、ガルシア兄弟。

よし。さあ、今すぐ信仰を持ちましょう。私は祈り、神に彼らの祝福を願うつもりです。始めなければなりません… [テープ上の空白部分] ああ、はい、なる

に立たせておいてください。この手で振動を拾います。すぐに彼を確認してほしい。そしてもし彼がそうじゃなかったら... 彼を少しだけそこに立たせてあげてください。彼をチェックしてください。

129 神よ、私たちの妹を憐れみ、父よ、生ける神の子イエス・キリストの御名によって、この神経質で脾臓の悩みを癒してください。ほら？神のご加護がありますように、お姉さん。さあ、喜びに行きましょう。行け... 幸せになれ。

おおイエスよ、私は今、私たちの妹のために、あなたが彼女を癒してくださいよう祈ります。主イエス キリストの御名において、私はそれを求めます。アーメン。今、信仰を持ちなさい。

妹よ、かつて私には兄がいて、そこの病院に横たわって死んでいた。彼らは彼が決して元気ではないだろうと言いました。彼は決して...?...椅子から降りることはないだろう。彼は今アクロバットです。神があなたを癒してくれると信じていますか？あなたは神に仕えていますか？あなたが誠意を持っているのを見て... カトリック。カトリック教徒のほとんどは、ビジョンを見ているので癒されます。

天の父よ、この小さな女性はリウマチ熱でここに立っており、父よ、彼女は信じ、信頼するように教えられてきました。そして私は今、あなたが慈悲を持って彼女を癒してくださいよう祈ります。サタンよ、あなたの地獄の力よ、この子を縛り付けて命を奪い、心臓発作を起こさせ、主イエス キリストの御名によって彼女から出てきてください。

神のご加護がありますように、お嬢さん。あなたにとってはとても奇妙に思えるかもしれません。あなた... 心がときめいたくなったことはありませんか... ベルトに羽ばたく。おそらくその部分には達していないでしょう。私の兄は心臓に3つの弁が開いていました。さあ、あなたは元気になるでしょう。喜びに行きなさい。

130 おお神よ、この拡大した心で私たちの妹を憐れんでください。あなただけが彼女を癒すことができます。イエス・キリストの御名によってそれを許してくださいよう祈ります。アーメン。神のご加護がありますように、お姉さん。

言ってください、今声明を出したいと思います。ここに来たカトリックの小さな女の子がいて、リウマチ熱で祈られていました。彼女がどこへ行ったのかは分からない。しかし、彼女は癒されました。はい。私は... この男はほんの数分前に説教壇を越えて戻ってきたところです。彼女はどこに行ったの？小さなカトリッ

私が今、皆さんの前でこの証しをしているこれらの言葉について、

私はいつの日か、裁きの場で、その一言一言の責任を負わなければならないのです。

11 さて、あなたがたが狂信(ファナティズム)について説教しておられることは承知しています。

神があなたを祝福されますように、兄弟。

私も、それが実にたくさんあることを見ています。(その通りです。)

純粋な狂信です。

それはすべて、

神に対してできる限りの妨げをしようとする、悪魔の働きにほかなりません。

その通りです。

すると、その白いものが、

私のすぐそばまで近づいて来ました。

そして私は、その雲の中に――

あるいは、何かの中に入って行ったのです。

正直なところ、その時、何が起こったのかは分かりません。

しかし、その中へ行くにつれて、

私は、ある小さな白い家へ向かっていることが分かりました。

それは、細長い家で、

三部屋ほど、あるいは二部屋ほどの小さな家でした。

私たちが

「ショットガン・ハウス」と呼ぶような造りで、

まっすぐ一直線に部屋が並んだ、

小さくて細長い家だったのです。

12 私は玄関から中に入りました。

すると、左手の方を見ると、赤いデュオフォールドの椅子が置いてあり、そこに年老いた母親が座って、泣いていました。

右手にもデュオフォールドの椅子があり、金色の、波打った髪をした若い男性がそこに座っていました。

そして、黒髪の女性が、台所——あるいは奥の部屋へ続く扉にもたれかかって、泣いていました。

私は視線を向こうのベッドに移しました。

それは小さな鉄製の柱付きベッドでした。

そして——

それは、私の人生で見た中でも、最も痛ましい光景の一つでした。

青いコーデュロイのオーバーオールを着た小さな男の子が、そこに横たわっていたのです。

その子の片方の脚は、こうして——

小さな腰の方へ、ねじれるように巻き上がっていました。

もう一方の脚も、同じようにねじれていました。

両腕もまた、互い違いに、体の横へねじれるように曲がっていました。

何かが、その子の小さな胸の上に押しつけられ、

小さな体全体が、ひどくねじ曲がった状態だったのです。

……ああ、それは……

言葉にできないほどでした。

その子の父親——

…?… 昨年2月、彼は足を骨折した。さて、半分新しいです。私はその少年のことを知りませんでした。彼が来たとき、どうやってその信仰を認識したのでしょうか?ほら?その信仰をどうやって認識したのでしょうか?なんと、聖霊がここにいるのです、神の天使よ。ほら?今彼の目を見てください、なんと完璧でしょう。

“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。彼らの中には、「“それは続くのか?”」と言う人もいます。信じたなら。信じる限り、それは続きます。そうか?そこです。ああ、私の。フェニックスの皆さん、あの少年を大いに称賛してください。まあ、大丈夫ですよ。見て、彼の小さな足も。完璧な信仰、なぜ、彼はそれを受け取ったのか?... 私は彼のために一言も言う必要はなかったでしょう。通り過ぎれば、—も同じように仕事をしたでしょう。あなたは立派な女性になるでしょう。..まあ、男になるでしょう、つまり。

よし。皆さん、頭を下げてください。

父よ、私はイエスの御名によって妹の癒しを祈ります... [テープ上の空白部分]

128 部屋に戻って、いろいろ... 目も無く。それはヴァンダリアでのことでした。よし。彼らのために祈りながら、今頭を下げましょう。

ちよつと緊張しますね、若者さん。親愛なる天の父よ、彼らは何マイルも離れたところから来ています。そして、数日以内にその素敵な州上空を飛行する予定です。そして父よ、あなたがこの兄弟を癒して下さるよう祈ります。そして彼がそこに戻ったら、喜びに行きましょ。この緊張が静まり、あなたの僕がしたように彼が路上に出て証言し、人々に告げますように。“私はかつて緊張していました。でも、今の私を見てください。私は元気です、主イエスが私を癒してくださったからです。” サタンよ、彼をイエス・キリストの名において残してください。

神のご加護がありますように、兄弟。喜びに行きなさい。そうだね。君は素晴らしい信仰を持っているよ、若者よ。ここで神から祝福を受けることになります。

おお神よ、私はここにいる完全に聴覚障害のあるこの男のために祈ります、と彼らは言います。今日の午後、あなたが彼に公聴会を開いてくれることを祈ります。許可してください、親愛なる父よ。イエス・キリストの名において、私はそれを尋ねます。アーメン。

さて、フーパー兄弟、この男をチェックしてほしいのです。彼を数分間ここ

父よ、イエス キリストの御名によって私たちの妹を癒してください。

父よ、イエス キリストの御名によって私たちの兄弟を癒してください。彼がこの車椅子、つまり担架から出て、イエス・キリストの御名を喜びながら家に帰ることができますように。アーメン。信じますか？あなたが求めたものはそれを持つでしょう。信じれば受け取らないことは不可能です。神のご加護がありますように、親愛なる兄弟よ。

この小さな女の子に神のご加護がありますように。あなたが彼女を癒してくれることを祈ります、お父さん。

おおイエスよ、母を祝福してください。彼女の治癒を祈ります。

私たちの兄弟に神のご加護がありますように... [テープ上の空白部分]

ああ、彼女は知らなただけです。彼女はスペイン人です。分かりますか？彼女は難聴です。でも、それはわかっています...?... [テープ上の空白のスポット]...?...

126 神様...(どうしたんですか？ああ、本当ですか？) おおイエスよ、あなたが私の親愛なる兄弟を癒し、元気にしてくださいますように祈ります。彼がこの建物から出て喜び、両手を空中に上げ、「主よ、イエスの御名によって」と叫びますように。

親愛なる兄弟、父よ、イエス・キリストの御名によってあなたに祈ります。

父よ、イエスの御名によってこの悪い視力をこの小さな男の子に癒してください。

イエス・キリストの御名によって私の兄弟のリウマチを癒してください。

そして喘息よ、イエス・キリストの御名によって私の兄弟を癒してください、父よ、あなたに祈ります。

神のご加護がありますように、坊や。ここを通りかかったら、もう元気になるでしょう。知ってたのか？あなたは。足のギプスを外すと、また普通の元気になります。

127 全能の神よ、誰が... [テープ上の空白部分] 彼の体を癒してください... [テープ上の空白部分]

背の高い、浅黒い顔立ちの男性が、赤ん坊のそばに立ち、泣いていました。私は思いました。

「これは不思議だ……。私は母の家にいたはずなのに……。本当に奇妙だ。」

しかし、これは夢ではありません。

悪夢を見ているような感覚ですが、

私が今ここ、アリゾナ州フェニックスのこの講堂に立っていると分かっているのと同じくらい、

いや、それ以上に現実なのです。

私は思いました。

「これは、本当に不思議だ。」

そして、私は向きを変えようと思いました。

——いつも右の方です。

右を向いた、その時——

そこに立っておられたのは、主の御使いでした。

あの、いつも私のもとに来られる、あの御方です。

その御方が、誰であるのか……？

13 さて、よく覚えておいてください。

ブラナム兄弟が去ったあとでも、このことを忘れないでください。

私は、その御方のお名前を知りません。

その御方は、一度もご自分の名を私に告げられたことがないのです。

その御方は大柄な方です。

人間の重さにすれば、二百ポンド(約90キロ)以上はあると思います。

白い衣をまとい、黒い髪をしておられます。

そして、こうして立っておられます。

その御方は、私の右側に立っておられました。

そして、その御方が言われました。

「この赤ん坊は、生きることができるか？」

私は答えました。

「わ、私は……分かりません。主よ。」

すると、その御方は言われました。

「あなたが祈りなさい。」

父親が、その子を私のところへ連れて来ました。

私は、このようにして、その子の上に手を置き、祈りました。

すると――

その子は父親の腕から落ち、

ねじれていた小さな脚の一本の上に落ちました。

その瞬間です。

その脚が、ほどけ始めたのです。

まず一本の脚が、まっすぐになりました。

次に一步踏み出すと、

もう一方の脚――左脚も、ほどけました。

さらに、部屋の隅まで歩くと、

次の一步で――

のを待っているのです。そして、彼らには救われる愛する人がいるかもしれませんが。そして、神よ、厚かましい蛇は誰のためにも祈らなかったことに気づきました。困った水は誰のためにも祈らなかった。イエスの裾に触れた女性は祈られませんでした。ペテロの影に横たわっていた人々は祈られていませんでした。パウロの体からハンカチを外して自分の体に持ってきた人たちは祈られませんでした。しかし、神様、彼らはあなたの賜物を信じ、認識したからこそ、よくなったのです。

さて、父よ、これらの人々がここフェニックスの地元だけでなく、あなたがそのように定めたのであれば、それが今では世界中で知られるように祈ります。そして、彼らが通り抜けられますように。それは、ここに立っているのがあなたの貧しく、謙虚で、読み書きのできない召使いだからではなく、あなたが尊んだのがあなたの賜物だからです。そして父よ、あなたは私がそれについて何もできないことを知っています。私はこのメッセージをこのように世界中へ伝えるために呼んだことは一度もありません。それはあなたでした、お父さん。私はただあなたの言うことに従って実行し、あなたはそれを実現しました。

124 さて、親愛なる神よ、人々があなたを信じてあなたの言葉を受け入れることが単なる子供の信仰であることを理解してください。そして、今日の午後、この建物にいるすべての病人がこの説教壇に列をなして、全員が家に帰れますように。彼らがこの建物から出たらすぐに、手を挙げてあなたの癒しを讃えに行き、メアリーが生命などを感じる前にしたように通りを証言してください。彼女が男性を知らないまま赤ちゃんを産むことを知っていました。ああ、それは不可能だ、今まで一度も起こったことのないことだが、天使がそう言ったので、彼女はそれが正しいと知っていた。

そして父よ、私はこれが正しいことを知っています、なぜなら天使がそう言ったからです。そして、あなたがそれを宣言したことを私は知っています。そうでなかったら、あなたはそれについて証言しなかったでしょう。もし狂信だったら、すぐに崩壊していただろう。しかし今、あなたはそれを世界中に広めました。

さて、親愛なる神よ、これらの人々が今日の午後を見て、それぞれ信じてこの一線を通って来て、癒され、数日以内に下って証言を書いて、こう言ってください。私を癒して下さった神に感謝します。”主よ、この街中、あらゆる場所、国中のあらゆる場所で警報が鳴りますように。私はあなたの御子イエス キリストの御名によって彼ら一人一人のために祈ります。アーメン。

125 父よ、イエス キリストの御名によって私たちの妹を癒してください。

癒されないのを、人生で見たのはその時だけでした...?...そして私はただ神に止められなければなりません。神が私を止めたら、私は止まります。彼が私を止めないとき...

121 私が彼に何を約束したか知っていますか?私が彼に約束したことを覚えている人は何人いますか?私は彼の証人を待たせようということ。そしてそれは正しい。それ以来そうしてきました。そして実際、それ以来、それ以前よりも多くの奇跡が起こりました。だから私は神の恵みを守りたいのです。そして、あなたは私にそうしてほしいのですよね?皆さんも私にそうしてほしいと思っています。そして私—もう少し長生きしたいです。

兄弟よ、姉妹よ、あなたがそれらの力の1つを配ると、500人のために祈るよりも多くの力があなたの体から奪われます。あなたから何かが起こります;あなたはただそれを見なければなりません。少し前のあの可哀想な少年のように、小さな足をそのように歩かせてここに立っている、良い信仰の筋が見つかります。小さな男が私を見上げると、小さな目に涙が浮かび、そのように微笑みました。なぜ、信仰はただの感動だったのでしょうか。何かが起こらなければならないことはわかっていました。何が起こったのかわかりますか?確かに。サタンは自分が与えなければならないことを知っていました。その小さな子供は、多くの大人のようにタコができていませんでした。さて、あなたはただ信念を持って信仰を持っているだけです。

122 そして私たちは... さて、私たちは人々を追い越して、すぐに列を通過します。皆さん一人一人のために祈りたいです。ただ通り過ぎたり、あなたのために祈ったりするのではなく、祈りたいのです。あなたと少し祈りを捧げたいのですが、私たちはそのような絶え間ない散歩を始めなければなりません。

さて、大臣たち、皆さんはここに上がってください。よろしければここにきて、これらのケースが通過したら今すぐいくつか確認してください。そして、もし彼らがそれを手に入れなかったなら、まあ、彼らを送り返してください。なんだ、私たちはできる限りのことをするよ。よし。

さあ、皆さん、今すぐ祈ってください。そして、皆さんはただ並ぶだけです。さもなければ、案内係がそこで教えてくれます。そして、私たちはすぐに列を突破し始めます。さて、私が祈りを捧げる間、皆さん頭を下げてください。そうすれば、皆さん全員が自分が祈られていることを知るでしょう。皆さん一人一人が...

123 全能の神よ、祈ります... お父さん、これらの人々の多くは今夜教会に行く

その子の小さな体全体が、完全に元に戻ったのです。

その子は、歩いて私のところへ戻って来て、

小さな手を私の手に差し出し、こう言いました。

「ブラナム兄弟、ぼく、すっかり良くなったよ。」

私は言いました。

「それなら、主をほめたたえなさい。」

14 すると、その御使いは、再び私の右の方へ歩いて行かれました。

そして、その御方は私を抱き上げ、

小さな田舎道の上に降ろされたのです。

私はそこに立っていました。

すると、その御方は—

墓地を示されました。

そして言われたのです。

「そこから、番号を取り除きなさい。」

私は、その通りにしました。

次に、また私を別の場所へ降ろされました。

そこは、小さなガソリンスタンドと、黄色い正面の店が一軒あるだけの場所でした。

すると、青いオーバーオールを着て、

黄色いコーデュロイの帽子をかぶり、

白い口ひげを生やした年配の男性が、店から歩いて出て来ました。

その御方は言われました。

「この人が、あなたに道を示すだろう。」

それから、その御使いは、

北から南へ向かって曲がるようにして、

私をある家へと連れて行かれました。

中へ入ると――

そこには、古いストーブが置いてありました。

いわゆる薪をくべる昔ながらのストーブ、

私たちが「チャンク・ストーブ」と呼ぶものです。

アリゾナには、あまり無いかもしれませんね。

チャンク・ストーブが何か分かる人、いますか？

……あなた、アーカンソー出身ですか？

あそこには、たくさんありますからね。

アーカンソー出身の方、どれくらいいますか？

――やはり、そうですね。

分かりますよ。

はい、結構です。

15 そして、その家には…… [テープ欠落] ……

壁に「神よ、私たちの家を祝福してください (God Bless Our Home)」

という看板が掛かっていました。

今の時代の家では、そういう看板は外されて、

代わりにピンナップ・ガールの絵が飾られていますね。

でも私は、昔の「神よ、我が家を祝福してください」という看板の方がずっといいと思います。

皆さんも、そう思いませんか？

供。フェニックス、どこから来たの？カリフォルニア。さあ見て。心からこれを信じてくれるなら… あなたは神に仕えるつもりです。それがあなたがやりたいことですよね？クリスチャンか？あなたは。そして、もし神がそのカルシウムを骨に戻し始め、再びそこに命が生まれ、それを正常な骨にしてくれるなら、あなたは残りの人生を神に仕えることになるでしょうか？その足は踊るためではなく、ただ神に仕えるために使うでしょう。そうか？やるだろ。わかりました、手を貸してください。

お父さん、この若い女性は、間違いなくあなたがしてきた多くのことについて全国で聞いているでしょう。そして今、彼女は大破しました。そして私たちは、神を愛する人々にとって、すべてのことが善のために協力すると教えられています。そして今、骨は治らない；それは彼女の手足の中で死んでいます。おお神よ、ただの子供よ。彼女を憐れんでください。彼女は私に決して踊らないと約束してくれました、そして彼女は… そして彼女はあなたに約束します、父よ、彼女は決して踊らず、この足をあなたの栄光のためだけに使用します。さて、全能の神よ、人生の資源であるあなたよ、私はあなたの愛する子イエス・キリストの御名において、今日の午後、その骨の中で人生を始め、イエス・キリストの御名において彼女が元気になるようお願いします。アーメン。

お姉さん、私がここに立っていると強く信じていますが、神の祝福があなたに起こりました、そしてあなたは普通の、良い女の子になるでしょう。お名前は？ローマ。どの部分からですか… カリフォルニアのどこどこ？カリフォルニア州レッドランズ？よし。書いてくれませんか… [テープ上の空白部分] そうしませんか…

120 [Blank. spot. on. tape.] …9つの主要な頭の下の体内にあります。それを覚えておいてください。私たちは今、彼らに近づいています。さて、あなたたちはそれを知っているはずですが、こんなことできない。そして残念ながら、私は何人かの閣僚を会議から退席させるつもりです。そして私たちは人々のために、もう少しだけ祈り始めるつもりです…

見て。あなたを癒すのは私の祈りではありません。もうあなたのために祈りました。あなたを癒すのは神への信仰です。さあ見て。もちろん、私は人々をここに連れて行き、霊を追い出すなどします。見えてるだろ。

そして今、私はあなたに言いましたが、それが私の人生で失敗するのを見たのは一度だけです。それは2、3日前の日曜日、私が説教壇に立って、奇跡を起こさないように、奇跡を起こしてほしくないのかと神に尋ねたときでした。その日、何人がそれを見るためにここにいましたか？よし。説教壇に時間を割いても

おお神よ、ここに立っているこの小さな男の子に、あなたが彼の小さな体を癒してくださるよう祈ります。何が間違っているかは、あなたもご存じでしょう。父よ、イエス・キリストの御名によって、あなたが彼を元気にしてくださるよう祈ります。アーメン。神のご加護がありますように、坊や。

神様、この女性を祝福してください。父よ、あなたが彼女の体を癒してくださるよう祈ります。彼女は身体に障害を負っており、この少女にここに連れて行かれているのがわかります。しかし、あなただけが彼女を元気にすることができます。私は彼女のために祈ります、あなたが私の祈りを聞いてくれるように祈ります。そして父よ、サタンがイエス・キリストの名においてこの叱責を受けられますように。お嬢さん、どれくらい信じていますか？心を込めて？よし。イエス・キリストの御名によって、あなたが家に帰って元気になりますように。アーメン。

118 神よ、私たちの妹を憐れみ、彼女を癒してください、父よ。神の子イエス・キリストの御名において、私は彼女の癒しを求めます。アーメン。神のご加護がありますように。奥様？何だったんだあれ？止まった、あなたの振動。それは何だったのでしょうか… ほら、それは私をフォアハンドにさせたのです。それはもうあなたから離れました。それが何だったか(わかりますか?)、それはただ消えただけです。振動が去ると、それは… 信じますか…?… 喜びに行きなさい、幸せになりなさい、そうです。そうなんですね…?… 神のご加護がありますように、お母さん。

私たちの天の父よ、私はこの杖を手ここに立っているこの親愛なる魂のために祈ります。年老いて健康を害しています。しかし、あなたは彼女の健康を回復するためにここにいます。イエス・キリストの御名によってそれを許してください。アーメン。神のご加護がありますように、お母さん。

神様、この哀れな妹をこの心の悩みから癒してください。おお神よ、この女性の障害、あなたはすべてを知っています、哀れな魂よ。彼女は元気になりたいと思っています。私はイエス・キリストの名において彼女の癒しを求めます。神のご加護がありますように、お姉さん。さあ、喜びに行きなさい。きっと元気になりますよ。

神様、この心の悩みを持つ私たちの妹を癒してくださいますように。許してください、親愛なる天の父よ。私はあなたの御子イエスの御名によってそれを尋ねます。行け、今信じて、お姉さん。

119 神のご加護がありますように。何があった？手？ああ、足の骨が死んでしまったんだ。さて、見てください、お姉さん、あなたは何歳ですか？17歳、ただの子

その通りです。

それから……

左手の方を見ると、大きな真ちゅう製のベッドがあり、

そこに横たわっている人がいました。

それが、女の人なのか、男の人なのか分かりませんでした。

顔つきはどちらかと言えば男性的でしたが、

髪は長く、唇は女性のようにハート形をしていました。

右手はこのような状態で、

左脚は、つま先が横向きにねじれるように曲がっていました。

私は思いました。

「これは、いったいどういうことだろう？」

「この人は、男性なのか、女性なのか？」

そう思いながら見ていると――

何かが私に語りかける声が聞こえました。

私は振り向きました。

すると、そこに、あの御使いが立っておられたのです。

その御方は言われました。

「さあ、行って祈りなさい。

そして、両手をこのように、

この人のお腹の上に、まっすぐに置きなさい。」

16 私は思いました。

「女の子なのか、それとも男の子なのか……。」

もし女の子なら、もう若い女性だろう。」

その御方は、

その人のお腹の上に、手を置きなさい

と私に命じられました。

私は、その御方が言われたことに背くなど、到底できません。

そこで、その人のお腹の上に手を置き、祈りました。

すると――

小さな声が聞こえました。

「主をほめたたえます。」

私は目を向けました。

すると、ねじれていた手が、まっすぐに伸び、

脚も、元の正常な状態に戻っていくのが見えました。

その人は、体を起こしました。

その時――

パジャマのズボンの裾が上がり、

丸い膝が見えたのです。

男性の膝というのは、骨ばっていて角ばっていますね。

しかし、その膝は――

はっきりと、女性の丸い膝でした。

その瞬間、

彼女が完全に癒されたことが分かりました。

ちょうどその頃、

全能の神よ、女性を憐れみ、彼女の体を癒してください。悪魔よ、彼女から出てきてください。私はイエス・キリストによってあなたに誓います。

今はその信仰を守ることができます、お姉さん。止まった。分かりますか？何が悪かったか分かりますか？今は怖くないよ。元気になるって分かっているでしょ？癌。よし。そんな疑いがあるの？さあ、今すぐ信じ続けてください。[テープ上の空白部分]

116 がんを患ってここにいます。そしてここで、少年は肺炎になりそうになり、祈るために小さなハンカチを送りたいと考えました。お父さん、私たちはそれらがパウロの体からハンカチやエプロンを奪ったと教えられています。そして私たちは自分たちが聖パウロではないことを知っています。しかし、私たちは、癒しを行ったのはいずれにせよ彼ではなく、前に進み出て人々の信仰をかき立てたのはあなたの御霊であったことに気づきました。今日の午後、私はその少年の体の治癒のためにこのハンカチを送ります。イエス・キリストの御名において、彼と彼の母親があなたの栄光のために何年も健康で幸せになりますように。アーメン。さあ、喜びに行きなさい、お姉さん。神のご加護がありますように。

神よ、私たちの親愛なる妹を憐れみ、彼女を癒してください。私たちの主イエス・キリストの御名において、私はこれを尋ねます。心配しないでください、お姉さん；あなたは元気になるでしょう。神のご加護がありますように、お嬢さん。

潰瘍ができましたね？よし。どこ、ガルシア兄弟の教会に行きますか。ああ、それはできません。.. よし。あなたは神を信じていますよね。天の父よ、今日の午後、この小さな女性が胃の潰瘍に苦しんでここに立っているとき、それを取り除く方法を知っているのはあなただけです。そして彼女は敬虔に來ました、お父さん。そして、あなたが彼女を助けてくれることを祈ります。

潰瘍の悪魔よ、私はあなたにこの少女をイエス・キリストの名において残すよう懇願します。お嬢さん、今は何も心配する必要はありません。潰瘍は治りますよ。もう大丈夫だよ。神のご加護がありますように、お姉さん。

117 天の父よ、私たちの妹のために祈ります。あなたが彼女の体を癒し、彼女を元気にしてくださいますように。サタンよ、イエス・キリストの名において女性から出てきてください。家で待っている彼女の親愛なる夫に神のご加護がありますように。彼の妻が叫びながら戻ってきて、彼女の癒しを神に讃美しますように。彼も立ち上がって叫びに行きますように、神よ。あなたは御言葉を話しました。同じ時間に彼は修復を始めます。行け 母上。何も疑わない。喜びに行きなさい。

手を差し伸べましょう。さあ、彼らはそれに値し、良い賞賛を受けるに値します。そうだね。

ここフェニックスにそのような大臣がいることを本当にうれしく思います。皆さんが組合を大いに復活させ、講堂やあらゆるものを人でいっぱいにし、祭壇に人々を降ろしてくれることを願っています。

114 シャリット兄弟と話しました。もう一つ、私が除外したくない男性がいます。聞く。フェニックスはジョン・シャリットのような男に恵まれていると思います。皆さんはそれについてどう思いますか？アーメン。そうか？彼にも手を差し伸べましょう、なぜなら彼は私にとって兄弟だったからです。そうだね。とても..そして今..はい、ギブソン兄弟、私は彼の妻を忘れることができませんでした。そうだね。彼女は何も言うことがない素敵な小さなキャラクターですが、ただ、“まあ、そうです。”彼女は料理が上手です。そして彼女は妹のように、兄弟のように私に接してくれました。私は彼らと彼らの幼い子供たちにとっても感謝しています。

まあ、実際一事実これ。皆さんに神に感謝します。アーメン。とても元気です。そして、今日の午後、この歓迎の精神をここで見ることで本当に感謝しています。内側も外側も信じなければならぬ場所になると、主が降りて来られます。そうか？そして、私はただ感謝しています、友人たち；これはフェニックスでこれまでに行われた中で最高の会議でした、この会議は今です。そうだね。

115 さあ、頭を下げておいてください。私たちはみんなのために祈ろうとします。さて、あなたは..教会に遅刻しないでください。教会に行かなければならないあなたは、すぐに行動します。今すぐ教会をお見逃しなく。だって私は..しかし、教会に行かずに留まることができるなら、なぜそのまま留まるのでしょうか。もう少し滞在できるなら、歓迎してください。覚えておいてください、私たちが会うまで、あなた方一人一人に神のご加護がありますように。さあ、祈っている間も、できれば音楽を続けなさい、お姉さん。

この女性に神のご加護がありますように。父よ、イエスの御名によってこの苦難から彼女を癒してくださいますように。アーメン。神のご加護がありますように、お姉さん。もう元気になるの？

神様、憐れんでください..ああ、待って、彼女はそれ以上のものを持っています..?…ああ、妹。I'll—あなたのために祈りが終わるまで、それが何であるかは言いません。できるよ..信じますか？

周りから声が上がりました。

「おお、神に感謝します！」

私は思いました。

「これは、本当に不思議なことだ……。」

すると今度は、

誰かが叫んでいる声が聞こえました。

「おお、ブラナム兄弟！」

おお、ブラナム兄弟！」

私は思いました。

「誰かが呼んでいる……。」

「おお、ブラナム兄弟……」

17 私は……我に返りつつありました。

気がつくと、私は部屋の床の真ん中に立っていました。

どこかへ行っていたような感じはなく、

ただ、最初からそこに立っていたかのようでした。

その時、誰かが戸口に来て、

私は言いました。

「はい、どうぞ。」

すると、その人がドアを開けて入って来ました。

彼は泣いていました。

彼は言いました。

「どうされたんですか？」

そして続けて言いました。

「ブラナム兄弟、私のことを覚えていますか？」

私は答えました。

「いいえ、申し訳ありませんが、覚えていません。」

すると彼は言いました。

「私の名前はジョン・エメルです。」

四年ほど前、あなたは私と家族にバプテスマを授けてくださいました。」

そして言いました。

「戦争中、ここの火薬工場で……あなたは……」

私は言いました。

「ああ、思い出しました。」

あなたは人を殺してしまったことがありましたね。」

彼は答えました。

「はい。殴り合いの中で、拳で相手を打ち、首を折ってしまいました。」

「それで……私は逃げました。」

「私は背教してしまったのです。」

さらに彼は言いました。

「昨年、私の小さな息子が肺炎で亡くなりました。」

「そして今、もう一人残っている息子がいるのですが、

この町のブルーナー医師が、

『その子も今、肺炎で死にかけている』と言っているのです。」

私は言いました。

これがこのようにクリアされたら(そして私はそれを動かしません。)、そしてそれがこのようにクリアされたら、それがあなたの目撃者です。その時何かが起こったのではないですか?きつと何かが起こったことがわかります。さあ、どこでも頭を下げてください。

112 全能にして全能の神よ、あなたは天と地を造られた方です。あなたは人間の体を作りました。そしてこの悪魔はこの若者の命を奪おうとしています。おおイエスよ、あなたは彼を助けるためにここにいます。父よ、助けてください。そして彼らが自分たちの民や近所の中で、あなたがキリストであり、私があなたの僕であることを知ってくださいますように。それゆえ、わたしはイエス キリストの御名によってこの悪霊に会いに来るのです。

結核の悪魔よ、彼から出てきてください。私はナザレのイエス・キリストによってあなたに誓います。男を離れて。

頭を上げたり、目を開けたりする前に、手が白くなっていますよね?よし。さて、そこにあります。(これで、聴衆の皆さん、頭を上げることができます。) さて、先生、私が手をまったく動かさなかったことはご存知でしょう。そのままでは正しかったですよね?そして、それはあちこちが赤く、その上に白い斑点があり(そうですか?)、行ったり来たりしていました。さて、そこにあるものとまったく同じように見えますね?はい。さて、何か自然なことが起こりましたね?振動が止まった。さて、もしあなたが心から信じて正し、神があなたを癒してくださいと証言して喜びながら通りを歩けば、あなたは善良な人になるでしょう。神のご加護がありますように、兄弟よ。それでいい。“主を讃えましょう..”

113 さて、皆さん.. 祈られるべき人は何人一残されていますか?そこに何人が立っているか見てみましょう。さて、見てみましょう。さて、教会に行くのに急いでいる皆さん、今は5時です。5時です。得たのか.. 私の時計は正しいですか?それはほぼ正しいですか、兄弟..?… 5時に。

ところで、機会があった間に、フォークナー兄弟、アウトロー兄弟、ガルシア兄弟、フラー兄弟、そしてこの兄弟に感謝したいと思います。あなたの名前は思いつきません。さて、トルーマン、トルーマン、そして他のさまざまな大臣たち.. これ…?… これは大臣ですか?バラード、バラード兄弟。そして残りはすべて.. ガルシア兄弟、そしてみんな.. 後ろにガルシア兄弟が立っています。そして、あらゆる場所で協力している大臣たち.. メサ出身のビーモンズ兄弟。どこで.. 彼はどこだ?この彼?カメラ付きの一でここにいます。それでいい。私たちは彼に感謝したいと思います。フェニックスの会議で私たちに協力してくれたこの兄弟たち全員、そしてメンバーの皆さん、そしてすべてのこと。皆さん、大臣たちに

てください..?… ああ、私の。あなたはイエスを愛していますか？そうですか？それはいいし、ダンディだ。今、あの観客を見てください。さあ、ここで見てください、友達。彼女の目、寄り目は..?… ついて来い 私の指を見ろ。さて、あなたは..?… あなたは私の指で目を動かします。やめてください..?…あなたの目。あなたの目にやってほしいことはこれです..?…そんな感じです。近い.. Ba—行ったり来たり。さあ、人々に見えるように立ち上がってください。完璧。神に賛美を捧げましょう。

あなたはここにいます、お父さん..?… あなたの言葉..?… あなたを讃えなさい。そして、父よ、この少女を毎日あなたの意志の中に、イエスの御名の中に留めておいてくださるよう祈ります、アーメン。神のご加護がありますように。今すぐ走って、主があなたのためにしてくださったことを人々に伝えてください。

よし。今、頭を下げてください。祈るべきことがたくさんあります。

111 おお神よ、この母親の側を創造されたあなたが子供を連れて行きました。そして今、ここで彼女は悲惨な状況に陥っています。私は今、その悲惨さを叱責します。女性を残して。主イエス キリストの御名において、私はあなたを叱責します。彼女から出てこい。脾臓に欠陥があったと思いますが、止まりました。行け.. どこに住んでいますか？あなたは神への証人です、お姉さん.. [テープ上の空白部分]

癒されるようになった。ああ、今すぐ助けてください。[テープ上の空白のスポット] 結核です、それがこの男を襲っています.. ああ、サタン、なぜこんなことをするのですか？彼をイエス キリストの御名において残してください。さて、ちょっと待ってください、皆さん、これがその男に当てはまります。

ほら、先生、こっちへ。どれくらい苦しんでたの？四十四。観客が欲しいです。もしかしたら、振動を見たことがない人もいるかもしれません。彼らに見てもらいたいのです。ちょっとここから出て行ってください。

わかりました、頭を上げてください、聴衆。結核の振動があります。私の手の上で白いミミズ腫れが上がったり下がったりしているのが見えますか？赤、この手がどれほど白く見えるかわかりますか？これを見てください。ここを見て、白いみみず腫れが見えます、行き来しているのが見えますか？見えますか？私の言いたいことがわかりますか？ここで少し見てください。さて、もし神があなたからそれを奪ったら、それは止まり、私の手はこれのようになるでしょう。両手の間にはかなりの違いがあるのではないのでしょうか？さて、あなたは私の手と、ここにいる患者であるあなたを見守ってください。あなたは私の手を見ています。もし

「それは本当ですか？」

彼は答えました。

「はい。」

そして言いました。

「どうか、その子のために祈っていただけませんか？」

私は言いました。

「はい、祈りましょう。」

すると彼は言いました。

「では、グラハム・スネリングを呼びに行きます……。」

彼は、今では

ジェファーソンビルのブラナム・タバナクルで、

私の副牧師をしている人物です。

その時は、彼のいとこでした。

彼は言いました。

「ブラザー・グラハムも一緒に来てもらいます。」

そして続けて言いました。

「赤ん坊は……私の家の場所、わかりますか？」

私は答えました。

「いいえ、わかりません。」

彼は言いました。

「私はインディアナ州ユーティカの上、約4マイルの所に住んでいます。」

ユーティカは、ジェファーソンビルから7マイルの所です。

私は言いました。

「分かりました。行きましょう。」

すると彼は言いました。

「車はあなたのを使わなくていい。

私の車で連れて行きます。」

私は答えました。

「分かりました。」

18 彼が外へ出て行くとすぐに、母が私を呼びました。

母は言いました。

「ねえ、あの人はどうしたの？」

ずっと体を震わせながら、ドアを揺すって、名前を呼んでいたわよ。」

私は言いました。

「母さん……何かが起こったんだ。」

「わ、私は……幻の中にいたんだ。」

母は言いました。

「あら、そうなの？」

そして続けて、

「それは、良いことなの？」

私は答えました。

「うん、良いことだよ。」

あの人の小さな息子は、癒される。」

それから、ほんの少しすると、彼が戻って来ました。

いことがあります。でも、あなたは私を信じますか…?… [テープ上の空白部分]
神のご加護がありますように、お姉さん。あなたの娘さんは今癒されるでしょう。

天の父よ、私は今、アーカンソー州ジョーンズボロにいるあの盲目の色の少女のことを考えています。彼女が私の古いぼろぼろのコートを掴んで、「“私を追い越さないでください”と言ったのです。あなたは彼らを知っています、お父さん。あなたは私たち全員と同じように、この有色人種のために亡くなりました。そして私たちは皆、キリスト イエスにおいて一つです。あなたは人を尊重しません。

109 そして今、彼らは喘息を患い、頭部に罹患した小さな斜視の女の子を私のところに連れてきました。主よ、あなたは彼女を元気にするためにここにいます。さて、その朝エルサレムで十字架を負っていたあなた、そしてあなたが倒れたとき、あの有色人種のキレネ人シモンがやって来て、あなたが十字架を負うのを手伝いました。神様、あなたが理解していることは知っています。そして、ここフェニックスのこれらの人々に、あなたが人を尊重していないことを証明するために、私はイエス・キリストの名においてこれらの交差した目を叱責します。さあ、皆さん、頭を下げてください。

全能にして全能の神よ、今日、あなたが神であり、私があなただの僕であることを知らせてください。それは、あなたが唯一の生ける神であり、あなたが私に油を注いで私を遣わしたことを人々が知るためです。私自身の言葉ではなく、あなたが私に啓示された言葉です。それゆえ、神の天使よ、私に行くように言ったあなた、そして私が誠実であれば、人々は信じるでしょう；祈りの前には何も立たないでしょう…これを求めます。フェニックスを離れるんだ。そして主よ、私はこの国を愛しています。そして、あなたが神であり、私があなただの僕であることを証明してください。

悪魔よ、私はあなたを叱責します。イエス キリストの御名によって子供から出てきてください。

110 小さな目を閉じておいてください、ハニー。さあ、頭を上げてください、でも目を閉じてください。(みんな目を閉じておいてください。) さあ、ゆっくりと目を開けて、私の方を見てください、ゆっくりと今、私のように一私のように。そこにいる彼らは、よし。彼女の目はまっすぐで正常です。外を見たいなら、ここの前に見てください…観客に気をつけろ。ほら、姉さん…?…そうだよ。ただ完璧です。みんなで言いましょ、”主を讃えましょ。”

はい 先生。頭の問題も消えたよ、お母さん。すべて大丈夫です。彼女を見

て。アーメン。[少年は言います、“アーメン。”] パパ。[“パパ。”] ママ。[“ママ。”] 言ってください、“主を讃えなさい” 皆さん。続けて。..?…

お父さん、妹を憐れんでこの高血圧を治してください、そうすれば彼女は疲れ果てて弱ってしまいます、お父さん。彼女が今日家に帰ってイエス・キリストの名において元気でいてくれることを祈ります。そうなの お姉ちゃん?今それを信じますか?“主なる神よ、私は今、あなたが私を癒して下さったと信じています。心から喜びに行きます。” そう感じますか?それなら喜んで道を進んでください。

107 視力を失いつつあるこの男に神のご加護がありますように。彼の。..?… [Blank. spot. on. tape.]…視力を失うことはありません。今すぐ建物を見回してください。この案内係はここホームに立っています。手を挙げてください、先生。彼は何本の指を立てたのでしょうか?彼の手が見えますか?まさにその通りです、兄弟。おっしゃる通りです。あなたに何が起こったのかわかりますか?神はあなたの信仰に報いてくださいます。わかった。..?…息子よ。

神様、ここに立っているこの哀れな母親は、あなたの栄光のために癒されることを望んでいます。彼女の偉大な信仰が今あなたを尊敬し、すべてを脇に置き、心を込めてあなたを信じ、イエス・キリストの御名によって癒されますように。アーメン。神があなたにあなたの願いを叶えてくださいますように、妹よ。あなたの妹は。..

父よ、この耳の聞こえない女の子を癒してください。イエス・キリストの御名において、彼女が今、公聴会を受けられますように。さあ、彼女のスピーチを確認してください、兄弟。

神よ、私たちの妹のために、あなたがイエス・キリストの名において彼女を癒して下さるよう祈ります。

神よ、イエス・キリストの名においてこの気管支炎を癒してください。

イエスの御名によって兄の胃の悩みを癒してください。

108 この小さな女の子を癒してください、父よ、私はイエスの御名によって祈ります。信じますか、お嬢さん?

何。..?…寄り目一寄り目。お嬢さん、イエス キリストは世の罪のために死に、癒しのために死んだと思いませんか?よし。頭を下げてください。..?… 私がこれができると思いませんか?私の他の会議には、時々有色人種の人があまり来な

私は車に乗り込み、
海軍工廠の方へ向かって出発しました。

道を走りながら、彼が話し始めました。

そこで私は言いました。

「エメルさん、

今、背教した状態にいるのは、

あなたにとって本当につらいことでしょうね。」

19 彼は言いました。

「はい、ブラナム兄弟……。正直、私は自分が恥ずかしいんです。」

「あなたのところへ来ることさえ、恥ずかしかった。」

「赤ん坊は、もう二週間ほど病気だったんです。」

「でも……。私は、あなたのところへ来るのが恥ずかしくて……。」

「ブルーナー医師は、『助からない』と言いました。」

彼は言いました。

「医者が帰ったのが、だいたい午前二時ごろでした。」

その時は、もう四時、四時半頃になっていました。

「『この子は死ぬ』と言われて……

もう、私にできることは、

最後に思いつくことをするしかなかったんです……。」

私は言いました。

「エメルさん、あなたはユーティカの上に住んでいると言いましたね?」

彼は答えました。

「はい。」

私は言いました。

「あなたは、小さな白い家に住んでいますね？」

彼は言いました。

「はい。」

私は言いました。

「玄関は南向きでしょう？」

彼は言いました。

「はい。」

私は続けました。

「家の中に、赤いデュオフォールドの椅子がありますね？」

彼は言いました。

「はい。」

私は言いました。

「赤い幅木があつて、

側面は羽目板(本実加工)のような造りでしょう？」

彼は言いました。

「その通りです。」

私は言いました。

「赤ん坊は三歳くらいで、

青いコーデュロイを着ていますね？」

彼は驚いて言いました。

最も貧しい場所だと言いましたが、今日の午後は最高だと思います。この女の子は私が手を握る前に治りました。ただ… 何かが動くのを感じ、女の子は治りました。

変な気持ちが湧いてきたじゃないですか？治ったね お嬢さん。よし。あなたは私の言葉をマークして、それが正しくないかどうかを確認します。主を讃えよ。

104 ほら、親愛なる友人たちよ。It isn't my prayer that heals you; it's your faith in God, what heals you.それはあなたを癒す私の祈りではありません。ただ通り過ぎて信じるという単純な部分です。そして、神の天使である私があなたに言ったことを覚えていて、私の聖書を手に持っていました。彼は、私が誠実であれば、祈りの前には何も立たず、人々に私を信じてもらえるだろうと言いました。あなたがしなければならないのはそれだけです。ただ信じて通りかかれば、それを受け取ることができます、友達。そして、それを信じるなら、そのように行動してください。歩き回って喜び、証言し、民に告げなさい。確かに、信仰はあなたが感じているものではありません。信仰はあなたが持っているもの(そうですか?)、あなたが信じているものです。さあ、私たちがただ祈っている間に頭を下げてください。ああ、ただうまくいっているだけです。私はこれが続くことを神に信じています。

父よ、イエス・キリストの御名によってこの喘息のために私たちの兄弟を癒してくださいますように。神のご加護がありますように、お父さん。信じますか？あなたはそれを持つでしょう。

105 信じますか、お嬢さん？神よ、この若い女性と彼女の優しい心を祝福してください。彼女がイエスの御名によって癒されたことを喜びながら、これから進んでくださるよう祈ります。アーメン。神のご加護がありますように、お姉さん。

神様、リウマチで不自由になってここに立っている私たちの兄弟を祝福してください。悪魔よ、彼をイエス・キリストの名において残してください。それならこれを導いてください。さて、あなたはリウマチで不自由ではありません。階段を下りてください。階段を下りてください。そこで彼は行きます。彼を見ろ。

“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。皆さん、今すぐ頭を下げてください。

106 神様、この言語障害を持つこの少年を癒してくださいますように。今、彼がここ説教壇に残りますように。私はイエス・キリストの名においてこの言論の障害を叱責します。言ってください、“アーメン。” [少年は言います、“アーメン。”] 神を讃えよ。[“神を賛美する。”] パパ。[“パパ。”] ママ。[“ママ。”] これを聞いて

101 神よ、私たちの妹を憐れみ、あなたの御子イエス・キリストの御名によってこの大腸炎を癒してください。神のご加護がありますように、お嬢さん。今信じますか？心を込めて？わかりました、あなたはそれを持っているでしょう。

全能の神よ、この貧しい人は、この健康な気候の中でもここに立って、結核で亡くなっています。父よ、私たちはあなたの力が必要であることを知っています。そして、父がこの単純な小さな祝福、単純な子供の信仰の中に立って通り過ぎて癒されますように。私はイエスの御名によってイエスの癒しを祈ります。アーメン。神のご加護がありますように、兄弟よ。喜びに行きなさい。自分の気持ちに注意を払わず、元気になってください。

神は私たちの妹を憐れみ、イエス・キリストの御名によってこの神経衰弱を癒してくださいます。アーメン。さて、お姉さん、元気になりますか？もう心配する必要はありません。なくなった。そうだね。喜びながら立ち去ってください。それでいい。

102 父よ、あなたが私たちの妹を癒し、元気にしてくださるよう祈ります。彼女がこの説教壇を去り、イエス・キリストの御名によって心から喜びますように。アーメン。信じますか、お姉さん？ドルサ、そうですか？いい名前だ。よし。さあ、喜びに行きなさい、ドルサ。

信じますか、姉さん、神様があなたのためにそれを手放してくれるのですか？父よ、私はこの窒息する霊とともに私たちの妹のために祈ります。それが彼女から離れ、もう彼女を悩ませませんように。私はイエス キリストの御名によってそれを叱責します。神のご加護がありますように、妹よ。何だって？ああ、見えていたってことですか？今じゃない。

言ってください、ちょっと目を開けてください。この女の子の喉には甲状腺腫が消えていました。そこには、a—a が甲状腺腫を示していました。そうだったのか お嬢さん？ここを見てください。飲み込む。“主を賛美しましょう。” 神のご加護がありますように、お嬢さん。..?…元気にになりました。

103 何歳ですか？私が神に尋ねれば、神は私の祈りを聞いてくれると信じますか？だって、もう治ったと思うよ。心を込めてやっています。神様、この若い女性を祝福してください。父よ、私は彼女の信仰が彼女を救ってくれたと心から信じています。イエスの御名において、私はあなたに感謝します。お嬢さん、この線まで歩いたとき、あなたは癒されました。

友人たちよ、目を開けてほしい。私は.. これは.. I—ここは信仰にとって

「あなたは、うちに来たことがあるんですか？」

私は答えました。

「……あなたが思っているような形では、ありません。」

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、それは……。」

私は続けました。

「赤ん坊は、今、ほとんど息をしていない状態でしょう？」

彼は答えました。

「その通りです。」

そこで私は言いました。

「主はこう言われる (THUS SAITH THE LORD)。

あなたの赤ん坊は、生きます。」

彼は言いました。

「ブラナム兄弟……？」

そして彼は言いました。

「あなたは……本当に、私の家に来たことがないんですか？」

私は答えました。

「ほんの少し前に、私はそこにいました。」

彼は言いました。

「でも、私はあなたを見ていません。」

私は言いました。

「ええ、それは……幻の中でのことでした。」

エメル兄弟。」

そして私は言いました。

「心配しないでください。

あなたの赤ん坊は、生きています。」

20 彼は、乗っていた古いモデルT・フォードのブレーキを急に踏み、

私たちの方へ振り向くと、

一方の腕でグラハム兄弟を、もう一方の腕で私を抱き寄せました。

私は、あれほど泣き、あれほど悔い改める人を、

それまでの人生で見たことがありません。

彼は言いました。

「神よ、私は自分が恥ずかしいです。」

「もし、私を赦してくださるなら、

私は二度と、二度と、あなたから離れません。」

そして、その場で彼は、再び心をキリストにおささげたのです。

私たちは、その場所に十五分ほどいましたが、

彼は泣き続けていました。

そして、神が自分を赦してくださったという確信を持ったのです。

それから、彼は家へ上がって行きました。

そして、私が家の中に入るとすぐに、

そこに母親の姿が見えました。

21 さて、ここが――

人が最も口を出してしまいやすいところなのです。

ください。さあ、今すぐ信仰を持ちましょう。

親愛なる父よ、私は若い女性のためにあなたが彼女を癒してくれるように祈ります。そして彼女が通り過ぎますように... じゃない... カルバリーを通り過ぎるとき、彼女が厚かましい蛇や問題を抱えた池、あるいはそれ以上のことをするのと同じように。父よ、イエス・キリストの御名において、それを許してください、と私は尋ねます。アーメン。神のご加護がありますように。元気になると信じていますか？それはあなたの...?... 腎臓のトラブル... 神のご加護がありますように、お姉さん。

100 おお神よ、この哀れな聴覚障害のある女性は、この不自由な体、哀れな小さな絵を描いたものを持ってここに立っており、今日の午後、彼女がそこに座っているのを見て、信仰を持っていると感じました。ですから、父よ、助けに来てください。そして、彼女を縛っている悪魔が出てきますように。

私はあなたに彼女から離れるように懇願します。イエス キリストの御名によって彼女から出てきてください。

ありがとう、お父さん。

それは分かった。あなたはそれを見ましたよね。聞こえますか？よし。今から頭を上げてもらえますか。

彼女がジャンプするのを見た。あなた一何が起こったのか知っていますよね？聞こえますか？アーメン。こっちに来て、あなたも関節炎で硬直していません。[テープ上の空白部分]

今、彼女は私を見ていました。かわいそうなこと... 私はそこに立っていました。私は彼女の信仰がそこを通ってやってくるのを感じました。私は... 両手をあなたの耳の中に突っ込んでください。そして、私が耳一手をそのように後ろに動かしたとき、彼女にとって聴覚はまさにそのようなもので、すぐに完了しました。よし、お母さん。それでいい。

よし。みなさん、頭を下げてください。置く...

親愛なる父よ、私たちの妹のために、あなたが彼女の体を癒し、元気にしてくださるよう祈ります。親愛なる神よ、この喉が治り、彼女の目が良くなることをお許しください。父よ、イエスの御名においてそれを許してください。神のご加護がありますように、お姉さん。信じますか？できれば手に入れるでしょう... [テープ上の空白部分]

98 おお神よ、この筋肉質のこの哀れな小さな硬直した少年が、小さな青い目を見上げています、おお神よ、これを行うことができるのはあなただけです。

サタンよ、イエス・キリストの名において少年から出てきてください。

誰かが頭を上げています。頭を下げてください、友達。これはすぐに戻ってきます。トラ兄弟、それが私の手をそこに回したのを見たでしょう..?...

信じますか、ハニー?みんな頭を下げてください。父よ、その少年を憐れみ、この筋肉質の状態を癒してください。できるのはあなただけです。

悪魔よ、彼から出てきてください。私はイエス・キリストとその聖なる天使によってあなたに誓います。

さあ、私の方へ歩いて行って、このように足を上下に上げて..?... そこにいるわ。手を上下に上げます。さあ、あなたの..を入れてください。こんな感じで。それでいい。さあ、全力で階段を下りてください。(聴衆の皆さん、頭を上げてください。) もう硬直してないよ。ほら 階段を降りて。

“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。

そうだね。今すぐ階段を上ってきてください。戻って来てください;彼らに見せてください。“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。さあ、向きを変えてここを右下に行き、この道を右下に進みます。“主を讃えよ” 皆さんとしましょう。さあ、頭を下げてください。今、建物のいたるところに、数百人を祈らなければなりません。さあ、頭を下げ、本当に敬虔になってください。

99 お父さん、この潰瘍の兄弟を治せるのはあなただけです。父よ、私は先ほど、私の胃が癌に近い大きな血まみれの生の潰瘍だったことについて話していました。しかし、私はあなたの言葉を信じました。私たちの兄弟も同様に行動し、イエス・キリストの御名によって癒されますように。神のご加護がありますように、兄弟。

親愛なる兄弟に神のご加護がありますように。父よ、あなたがイエス・キリストの御名によって彼の体を癒して下さるよう祈ります。神のご加護がありますように、兄弟。今すぐ喜びに行きなさい。

親愛なる父よ、あなたが今私たちの妹を治してくれることを祈ります。彼女がここから喜びながらイエス・キリストの御名において元気でいられますように。アーメン。元気になるたいの、姉さん?喜びながら道を進みましょう。もう忘れて

私がこのケースを話しているのも、

実はここで、私はほとんど失敗しかけ、

危うく事を台無しにしてしまいそうになったからです。

だから、自分が何をしているのか、よく注意しなければなりません。

私は……

部屋に入りました。

そこに、あの小さな赤ん坊が横たわっていました。

赤い幅木もありました。

あのデュオフォールドの椅子も、そこにありました。

一緒にいたのは、グラハム・スネリング兄弟でした……

[テープ欠落]

神は決して急がれません。

急いでいるのは、私たちの方であって、神ではありません。

私は言いました。

「もし信仰があるなら、今すぐ赤ん坊を連れて来なさい。」

……彼らは赤ん坊を連れて来ました。[テープ欠落]

母親は……

赤ん坊は、ほとんど生きていない状態でした。

息をしているかどうか分かる唯一の方法は、

薄い紙切れを鼻先に当てて、

それが動くかどうかを見ることだけでした。

それほど、ひどい状態だったのです。

私は見て分かりました。

体のねじれは、肺炎によるものでした。

体のほとんどが、ここまで——

事実上、死んでいるような状態で、

呼吸できているのは、ここだけだったのです。

それが、あの「ねじれ」というしるしだったのです。

私は言いました。

「こちらへ連れて来なさい。」

彼らは、赤ん坊を私のところへ連れて来ました。

そして——

私が祈った瞬間、

何と、状態は良くなるどころか、さらに悪くなったのです。

小さな目はうつろになり、

舌が外へ出て、

小さな頭は後ろへ倒れました。

私は思いました。

「待て……何かがおかしい。」

私は、生まれてこのかた、

これが失敗したのを見たことがありません。

なぜなら、これは——

聖書と同じほど真実なことだからです。

神はすでに語っておられる。

なるよ。

神様、私はこの小さな赤ちゃんのために祈ります、あなたがそれを癒して元気にしてくださいますように、お父さん。私はイエス・キリストの御名を通して、あなたがそれを癒してくださるよう祈ります。そして、この心の悩みで母親を祝福してください。神様、今日が彼らにとって新しい日となりますように。彼らがイエス・キリストの御名によって喜びながらここから出て行き、元気になるように。アーメン。

お母さん、心から信じていますか？あなたの赤ちゃんは元気になるでしょう、そしてあなたがそれを信じることができればあなたも元気になるでしょう。

おお神よ、あなたが私の兄弟を癒してくださるよう祈ります。今ここに立っていて、完全に耳が聞こえない人。あなたが今、彼に癒しを与えてくださるよう祈ります。イエス・キリストの御名において、私はそれを尋ねます。

私はこれを通過させます、そして皆さんはそこで彼をチェックして、今何が起こったのかを見てください。通過しながら、今すぐこれらをいくつか確認してください。

97 神様、この胆嚢の問題を抱えた私の親愛なる弟を癒し、元気にしてくださいますように。イエス・キリストの御名において祈ります。神のご加護がありますように、先生。それがまさにそれをやったのです、そのとき。もう手に入れたよ、続けて。神様.. ああ、私の。彼はそのビジョンをすぐに見ました。わ、わ。それは無料です。

神よ、私は妹のために祈ります、あなたが彼女を癒してくださいますように。イエス・キリストの御名において、私はあなたに尋ねます。アーメン。

あなた、妹、もしよろしければ。神よ、あなたがこの喉の悩みの妹を癒してくださるよう祈ります。イエス・キリストの御名において、私はそれを尋ねます。

神様、妹を祝福してください。あなたが彼女を癒してくれることを祈ります、お父さん.. イエス キリストの御名。アーメン。知らなかったよ。彼女を祝福してください..?…今..?… はい。神のご加護がありますように、先生。神様、この心臓に問題を抱えた小さな赤ちゃんを祝福してください。お父さん、あなたがそれを癒して、元気にしてくださいますように祈ります。私はその癒しのためにイエス・キリストの名においてそれに手を置きます。母を祝福してください、父よ。イエスの御名によって彼女に長く幸せで健康的な生活を与えてください。神のご加護がありますように、お嬢さん..?…

私はヨルダンを越えてカナンの美しい地へ渡りました

そして、これは私にとって天国のようなものです。

94 さあ、皆さん、私たちが祈っている間、頭を下げてください。

おおイエスよ、私たちの妹を癒すことができるのはあなただけです。今日、父よ、彼女の聴覚が彼女に届き、彼女の静脈、静脈瘤が乾くことを認めてください。永遠の神よ、イエス・キリストの御名においてそれを与えてください。

悪魔よ、イエス・キリストの名において女性から出てきてください。

聞こえますか？聞こえますか？ささやいています、お嬢さん。わかりました、頭を上げてもいいです。聞こえますか？聞こえますか？言ってください、“アーメン。” [女性は言います、“アーメン。”] 主を賛美せよ。[“主を賛美せよ。”] 今、私はささやいています、お嬢さん。すみません。ほら、それが私—私が聞いていたことです。ほら、あなた—あなたはそれを理解していませんでした。そうだったんだ。そうするとすぐに(わかりますか?)、誰かがそうするだろう、またはそうするだろう(わかりますか?)、時には彼らはただこう言うでしょう“まあ、これ、あれ。”それが、私があなたをすぐに止めた理由です(わかりますか?)、あなたがそれを手に入れるためです。聞こえますか？彼女は私の声をよく聞いています。たとえば、“サウスダコタ州。” サウスダコタ州。彼女に主を大いに讃えましょう。神のご加護がありますように、お姉さん。

ああ、私の。彼は今日それをするだろうと感じました。そうだね。ああ、あなたは彼を愛していませんか？言ってください、“アーメン。” よし。さあ、皆さん、頭を下げてください。

95 兄弟よ、私が神に尋ねれば、神がこの結核を治してくれると信じますか？親愛なる神よ、聴覚障害者に聞こえるように、あるいは視覚障害者に見えるように、愚かな者に話させることができるあなた、あなたはこの結核の私たちの兄弟を癒すことができます。父よ、あなたがそれを認めてくださるよう祈ります。それが彼をイエス キリストの御名に残しますように。

神のご加護がありますように、兄弟よ。さあ 見て。それが何であるか—祈りの単純さ、あなたの信仰；それは長い祈りではありません。それはあなたの信仰です(わかりますか?) それでいい。ほら？

96 [テープ上の空白のスポット]…あなたは私の背中にそのように触れます。同時に何百人もが通っていて、女性の音も元気です。続けて。信じれば元気に

そこに疑いの余地はありません。

人に向かって

「あなたには信仰がありますか？」

などと尋ねる必要もありません。

これは、すでに全能の神によって宣言されたことなのです。

必ず起こるのです。

22 私は、何かがおかしいと思いました。

その時、ふと、こう思ったのです。

「一人、ここにいるはずの人がいない。

すべてが、整っていない。」

あの年老いた母親——

眼鏡をかけたあの人が、家の中にいない。

彼女は、どこに行ったのだろうか？

私は思いました。

「……そうだ、これは……。」

すると、赤ん坊は向こうへ運ばれ、

激しく息を詰まらせ始めました。

(ブラナム兄弟、息を詰まらせる音をまねる。)

母親が駆け寄り、父親も走り寄り、

二人で必死に赤ん坊の世話をし始めました。

鼻に何かを当てたり、あれこれと手当てをしました。

しかし、二人は取り乱して叫び始め、

その場を離れてしまいました。

その間、グラハム兄弟が赤ん坊の世話を続けていました。

そして――

赤ん坊の小さな体は、

これ以上ないほど真っ青になり、

硬直したまま横たわっていました。

肺はすでに……

完全に詰まっていた。

肺が腫れ上がり、

そのために、小さな肋骨が内側から押し上げられるほどでした。

体は折れ曲がるようになり、

まさに、その状態のまま横たわっていたのです。

私は思いました。

「……ああ、これは……。」

その時、私ははっきりと悟りました。

あの母親が、ここにいなかった。

そして――

私は、神に対して過ちを犯した。

神の前に、失敗してしまったのだ。

23 それから彼らは、夜が明けるまで、日の出になるまで、

その赤ん坊の手当てを続けました。

私は、その間、一言も話しませんでした。

彼女に走って妹のために祈らせましたが、妹はとても真剣でした。そして彼女は成長し、良くなってきています。そして、小さな男の子、小さなスペイン人の男の子、小さなジョセフ兄弟は.. 今日には彼に会っていません。出発する前にジョセフに会いたいです。スペイン人の少年が死にかけていると思われ、そこに横たわり、脳などをすべて押しつぶしていた部屋に私を連れて行ってくれませんか。少年は意識を取り戻し、治癒し、病院から帰宅した。

私たちが祈るとき、今は頭を下げてください。(そこで質問できます。)

93 父よ、私たちの兄弟が元気になるよう、あなたに助けてください。サタンよ、私はあなたに少年をイエス・キリストの名において残すよう命じます。神経疾患が起きました。神のご加護がありますように、親愛なる兄弟よ。今すぐ信仰を持って行きなさい。

耳元でトランペットを吹いているのが見えますね。このラッパなしであなたに癒しを与えるために、神が私にこれをするように遣わしたと信じますか?聞こえないの?よし、兄弟。

天の父よ、その男は今、このラッパを耳に当ててここに立っており、彼を救い出すことができるのはあなただけです。あなたが私の兄弟を癒してくれることを祈ります。彼はこの古いトランペットにうんざりしている。彼は人々が彼を見つめることにうんざりしている。そしてあなたは彼を解放するためにここにいます。話せ 親愛なる神よ。

悪魔よ、イエス・キリストの名においてその男から出てきてください。

聞こえますか?聞こえますか?今なら頭を上げてもいいよ。その男はトランペットで私の声さえ聞こえませんでした。聞く。聞こえますか?[男は答えません、“はい、先生。”]聞こえますか?[“はい、先生。”]彼は少し前までトランペットで私の声が聞こえませんでした。聞こえますか?[“はい、先生。”]主を賛美せよ。アーメン。

“主を讃えよ”皆さんとしましょう。神のご加護がありますように、兄弟。行け、主を賛美せよ。神のご加護がありますように。神のご加護がありますように、兄弟よ。ああ、私の。

そして、これは私にとって天国のようなものです、

はい、これは私にとって天国のようなものです

90 さあ、頭を下げてください。ああ、私の。フェニックスではいつもこんな気持ちになってみませんか。これは人々が癒されるために必要な感覚です。さあ、皆さん、頭を下げてください。

はい 先生。先生、何かが行われなければ、人生の旅の終わりにあなたの時間が非常に近づいていることはご存知でしょう。どこに住んでいますか？フェネル。よし。今、信仰を持ちなさい。疑わないで。ただ信仰を持つ。私があなたに言ったことを覚えていますか？心から信じてください。

天の父よ、私は今癌を患っている兄のために祈ります。彼の人生は、この大きな悪魔の癌がそれをやっていることにうんざりしています。彼からその“オクトマス”、あの悪魔を奪い、そこに力と手足を伸ばしてこの男の命そのものを食べることができるのはあなただけです。父よ、彼は私たちの兄弟です。そして私たちはあなたの子供としてあなたのところにやって来ます。

悪魔よ、イエス・キリストの名において彼から出てきてください。

兄さん、自分で私の手を見てください。クリアした。喜びに行きなさい。神のご加護がありますように。。

おお、ナザレのイエスよ、彼女を悩ませているこの恐ろしい力で苦しんでいる私たちの妹をここで助けてくださるよう祈ります。

サタンよ、その女から…の名において出て来なさい。[テープ上の空白部分] イエス・キリストの御名において、私はそれを尋ねます。そこに神のご加護がありますように。

91 神のご加護がありますように、お姉さん。父よ、私たちがこの祝福を求めている今、この女性は私たちが求めているものにふさわしいと信じています。それは私たちの兄弟の妻、あなたの僕です。そして彼女は常にこのサービスに利用されています。父よ、今日彼女を癒して、彼女の素晴らしい協力に報いてください。しもべの祈りを聞いてくれるでしょうか？神よ、私をハロルド・ネイルの家へ遣わしたあなた、私をユティカへ、エメル兄弟へ、そしてリトルロックの男へ、そしてさまざまな場所へ遣わしたあなた、これらのことをしたあなた、祈りを聞いてください私たちがここを急いでいるときにあなたの僕に、そしてまさにこの日、この女性にここから救いを与えてください。私はイエス キリストの御名によってこれを尋ねます。アーメン。神のご加護がありますように、シスター アウトロー。心配するな。大丈夫だと思いますよ。

92 大丈夫。シスター アウトローから報告を聞いたところです。先日の夜、私は

話すことができなかつたのです。

何も言うことができませんでした。

私は、ただ——

あのデュオフォルドの椅子を見、

すべてを見ていました。

分かっていたのです。

やがて、スネリング兄弟が仕事に行かなければならない時間になりました。

そこで、エメルさんが彼を家まで送ることになりました。

彼は私に言いました。

「ブラナム兄弟、あなたも一緒に行きますか？」

私は答えました。

「いいえ。私は、ここに残ります。」

そして私は、心の中でこう祈っていました。

「ああ、神よ……

お赦してください。

お赦してください。」

24 ……それは……。

皆さん、覚えておられるでしょう。

二、三週間前、私がここ講壇に立っていて、あることをしてしまった時のことを。

あれが、私が……

ああ……それは……。

私は——

人間の姿を見てしまい、
 誰かの言葉に耳を傾けようとしてしまう。
 神が何を語られるのかを待たずに、です。
 だから、どうか私のために祈ってください。
 それが、今の私に一番必要なことです。
 今日は、皆さんに心を開いて話しています。
 なぜなら……

これが、人生で皆さんとお会いする最後の機会になるかもしれないからです。

それから私は振り向きましたが、
 どうしてよいのか分かりませんでした。
 彼が言いました。
 「ブラナム兄弟、一緒に下へ戻りますか？」
 私は答えました。
 「いいえ。私はここで待ちます。」
 私は分かっていました。
 もし神が私の祈りを聞き、赦して下さるなら、
 その赤ん坊には、まだ望みがある。
 けれども……
 何もかもが整っていなかった。
 一つも、正しい位置にそろっていなかったのです。
 このことは、
 皆さんには大したことのように思えないかもしれませんが。

す。もしかしたら彼らは盲目か、耳が聞こえないか、口がきけないのかもしれませんが。プレッシャーが私に襲いかかるのを感じたり、それが信仰だと知ったりすると、私はたいていそのように立ち止まります。なぜなら、もし彼らが、何が悪かったとしても、それが行われることを信じているなら…しかし、その信仰を感じないなら、ただ信仰の祈りを捧げて、彼らを手放します。私の言いたいことがわかりますか？皆さんは理解していますよね。

88 よし。さあ、皆さん頭を下げた祈りましょう。

親愛なる神様、私たちの妹が今通り過ぎています。彼女の気持ちではなく、信仰に従って彼女を手放してください。彼女がイエス・キリストの名において癒されますように。神のご加護がありますように、お嬢さん。

さて、私は、協力できるここにいるすべての牧師たちが、この線に沿ってここに降りて、これらの人々と話し、彼らのために祈りに行くことを願いました。協力するすべての牧師は、その祈りの方針に沿って祈ります。神はあなたの祈りを聞いてくださいます、兄弟、牧師である皆さん。

イエス様、私たちの妹を憐れんで癒してください。許してください、主よ。イエス・キリストの御名によって、これが癒されますように。そうです、お嬢さん。さあ、喜びながら行きなさい。

神のご加護がありますように、兄弟。重篤な状態だな。それは分かっているでしょ？

89 ああ、神様、私は今、少し前に医師の証言とともに届いたばかりのレントゲン写真のことを考えています。彼女の肺の半分以上がなくなり、X線写真も写っています。今…ここフェニックスで…そして今、彼女の次のものはネガティブを示しています。おおキリストよ、私の隣人であるあの美しいオハイオ州からずっと下ってきて、ここアリゾナで祈ってくれるこの男を憐れんでください。

悪魔よ、イエス・キリストの名において彼から出てきてください。

さて、親愛なる兄弟、あなたはそこにいる私の隣人です。疑わないで。振動が止まりました。さて、皆さんもそれを信じられるなら…感じたの？大丈夫。神のご加護がありますように。

“主を讃えよ”皆さんとしましょう。皆さん、主を讃えましょう。その男はオハイオ州から祈ってもらうためにここに来ました、その私のすぐ隣です。

神様、ここアリゾナ州の知事の命を救ってください。神よ、私たちは彼を愛しています、そしてあなたが彼をこの一この州の人々と国家の事柄の監督者に任命したことを私たちは知っています。そして、あなたが今あなたの天使を彼のところに送り、私たちが今彼のために祈っていることを彼に知らせてくれるように祈ります。そして神よ、私たちの祈りに答えてください。そうすれば神はすぐに回復して下さいますように。彼が元気で、生涯を通じてあなたを愛して下さいように。許可して下さい、お父さん。生ける神の子イエス・キリストの御名によって総督の命が救われるようお願いいたします。アーメン。

さあ、皆さん着席してください。ありがとう。

[兄弟が祈りの列にいる人々と案内係に指示を与えます。]

オズボーン知事、それはから来ています。

86 よし。さあ、皆さん、今は本当に敬虔になってください。祈りの列を始めます。そして、あなた一案内係は列を動かし続ける方法を知っています。できる限りすべての人のために祈ります。

さて、何が起こったのかお話しします。さて、沿線で何が起こるかは分かりませんが、桑の木が揺れているように感じます。そうだね。それは.. 8、10日くらいあれば、登り続けてここで地位を確立できると思います。そうだね。

さて、一4時半です。さて、何時に出かけるかわかりません。誰もが祈ったとき、私たちはそうなるでしょう。そうだね。だから今、私はそれをやりたいのです。そして、皆さんの優しさに感謝します。だって、今油注ぎの下に入ったら、その下から出たくないだろうから。分かりますか？そして、皆さん一人ひとりの優しさに感謝します。

87 あなたはまだ私を兄弟として愛していますか..?… そうですね、私はまだあなたを愛しており、あなたに完全な自信を持っています。私はあなたが私の中にいると信じています。そして、私たちが再び会うまで、神が私たちを見守り、私たちの間を見守って下さいますように。そして、もしそれが裁きにあるなら、私たち全員が生命の木の下に降り立ち、皆さんと話すためにそれぞれ千年の猶予が与えられることを祈ります。そうだね。だから今、神のご加護がありますように。

そして今、家に帰らなければならないなら、起きたら敬虔に行きなさい。しかし、もしそれが邪悪な力を追い出しているとしたら...

時々、人が私のところに来るとき、信仰の圧力が私にかかっていると感

しかし、神の御前では、それがすべてを左右するのです。

一点一画まで、完全に正しくなければならない。

その通りです。

そして私は……

彼が「それでは……」と言った、その時——

25 スネリング兄弟が言いました。

「もう行かないといけない。仕事に行かなければならないんだ。」

彼は、あそこのコルゲート社(パルモリーブ・ピート社)で、

トラクターを運転する仕事をしていました。

それで、上着を着込みました。

私は思いました。

「ああ、もし彼が行ってしまったら、

戻って来るまで、二日か三日、

ここに座って待たなければならないかもしれない。」

なぜなら——

彼こそが、幻の中に出てきた、

金色の巻き毛の男性だと分かっていたからです。

友よ、

その時、私が何を思っていたか、

あなたには分からないでしょう。

そして、裁きの日に、

私がこのマイクの前で語っているこれらの言葉について、

答えを求められるその日が来るまで、
 あなたが知ることもないでしょう。
 私は、デュオフォールドの椅子に腰を下ろしました。
 外では、太陽が昇り始めていました。
 季節は冬で、ひどく寒かったのです。
 私はそこに座っていました。
 エメル兄弟は、
 分厚い上着と、大きな重たい帽子をかぶっていました。
 スネリング兄弟も、
 上着を着込み、身支度を整えていました。
 二人は、出て行こうとしていました。
 エメル兄弟は、妻に何か話していました。
 私は、窓辺に座り、
 こうして外を見下ろしていました。
 すると——
 家の周りを回る、
 小さな土の小道が見えました。
 その歩道を、一人の女性がこちらへ歩いて来るのが見えたのです。
 それは——
 赤ん坊の祖母でした。
 眼鏡をかけていました。
 ああ……。

彼はあなたのことを気にかけています
 太陽の光や影を通して、
 彼はあなたのことを気にかけています。(さあ、みんな立ってください。)
 彼は..

84 さあ、振り返って隣人と握手しましょう。みんな歌ってください “He Cares For You.” あなたのそばに立っている誰かと握手してください。

彼は..を大切にしています。(そうです。しっかり握手をして右折してください。)

彼はあなたのことを気にかけています。(もう一度歌いましょう。)

彼はあなたのことを気にかけています、

彼はあなたのことを気にかけています

太陽の光や影を通して、

彼はあなたのことを気にかけています。

みんなで “アーメンとしましょう。” さあ、傷つけないわ。さて、言ってください、
 “主を讃えなさい。” 来てください。.. 主を賛美せよ。さて、みんなで一緒に
 言うのを聞いてみましょう。“隣人を愛しています。” [会衆は言います、“私は隣
 人を愛しています。”] “この時から、私はキリストの僕になろうと努力します。”
 この時から、私はキリストの僕になろうとします。

彼は..を大切にしています。(ああ、すぐに始めましょう。)

彼はあなたのことを気にかけています

太陽の光や影を通して、

彼はあなたのことを気にかけています。

85 ゆっくり鳴らしてよ、兄弟。さあ、頭を下げましょう。あなたの州の知事は重篤な状態にあり、今彼のために祈るよう私に知らせてくれました。お辞儀をしてください。.. [テープ上の空白部分] ああ、お父さん、とても素敵に私たちと協力してください。高いところ、高い席、人々を支配している男。..

彼は..

これが私があなたに歌いたいことであり、皆さんも今私に歌い返してください。何人が知っているでしょうか?“彼はあなたを大切にしています、”あなたの手を見てみましょうか?(よし。今すぐ私たちを連れ出してください。よし。)

彼はあなたのことを気にかけています、

彼はあなたのことを気にかけています

太陽の光や影を通して、

彼はあなたのことを気にかけています。

さあみんなで歌おう。さあ。

彼はあなたのことを気にかけています、

彼はあなたのことを気にかけています

太陽の光や影を通して、

彼はあなたのことを気にかけています。

83 聞く。この中央の通路で残りの皆さんのために歌わせましょう。ここを通る真ん中の通路で一緒に歌ってください。さあ 今から。

彼はあなたのことを気にかけています、(彼らはあなたたち全員に歌っています。)

彼はあなたのことを気にかけています

太陽の光や影を通して、

彼はあなたのことを気にかけています。

立つことができるすべての病人、すべての病人を立たせてください、それが祈りの列になります。さて、ここにいる皆さん、それでは、祈りの列に並ぶ病気の人たちに、あなたと私はそれを歌いましょう。

彼は..(彼らに指を向けなさい。)

彼はあなたのことを気にかけています、

その時の気持ちは、言葉にできません。

私は思いました。

「ああ、どうか、今だけは出て行かないでくれ……。」

そして心の中で言いました。

「ああ、神よ……

あなたに感謝します。」

26 その女性——赤ん坊のおばあさんは、

いつも正面の玄関から入って来る人でした。

訪ねて来る時は、必ず玄関だったのです。

しかし、その朝は違いました。

私の車はそこになく、

娘婿の車だけがありました。

彼女は、赤ん坊の容体があまりにも悪かったので、

朝早くに一度家を出て、

少しでも眠るために自分の家へ帰っていたのです。

そして戻って来た時、

裏口から回って来たのです。

私は——

何も言うことができませんでした。

ただ、そこに座って、

見守るしかありませんでした。

なぜなら……分かっていたからです。

しかし、
その女性が歩いて来るのを見た時の気持ちは、
決して言葉にできません。
私は、
「あの人だ」と分かりました。
人生で一度も会ったことがない人なのに、
それが彼女だと分かったのです。
彼女が、そうして通り過ぎて行くのを見ながら、
私は心の中で言いました。
「ああ、神よ……主をほめたたえます。」
スネリング兄弟たちは、
もう出発する準備を整えていました。
その時、
彼女は台所のドアから入り、
中ほどのドアのところまで来て、
ノックをしました。
もし、彼女がそのようにしなかったなら、
この幻は、まだ完成していなかったでしょう。
娘——エメル夫人が、
誰が来たのか確かめるために、
ドアを開けました。
そこに立っていたのは——

昔ながらのリバイバルを送ってください。
父よ、すべての人を癒してください。
そして、私が人々に明らかにしようとしてきた、
あなたの御使いが、今も共にいてくださいますように。
私は、
御使いが語られるとおりに語ることはできません。
私の祈りは、
ただ人々の信仰のためなのです。
しかし、ああ神よ。
どうか人々が、
今日この午後、この列を通るとき、信じる信仰を持てますように。
ここには、数百人の人々がいます。
彼らが通り過ぎるとき、
一人ひとりが癒されますように。
そして、
すべての誉れと栄光を、あなたにお返しします。
私たちは、
主イエスの御名によって、
主の栄光のために、これを願い、祈ります。
アーメン。

82 さて、彼らが祈りの列を終えている間に、ちょっとした別れの歌を歌いたいの
ので、兄弟よ、そこにコードをください。“He Careth For Thee.” そうします
か？“彼はあなたを気遣っています、” ご存知のように。

私は、他の目的のために来たのではありません。

ただ、このくぼんだ目をした、

病み、死にゆく人々を助けようとしているだけなのです。

ああ、神よ。

すべての病と患いを癒される、

愛に満ちたキリストを紹介しようとしているときに、

どうして、そんなことに対して

悪意ある言葉を投げかけることができるのでしょうか。

81 主よ、あなたのしもべである牧師たちを祝福してください。

彼らが油注がれた火のブランドとなりますように。

そして主よ、

ここフェニックスに、昔ながらのリバイバルを起こしてください。

教会から教会へ、

場所から場所へと広がっていき、

やがて全国の人々が、こう言うようになりますように。

「アリゾナ州フェニックスへ来なさい。

そこでは再び聖霊が注がれ、

人々の間で大いなるしるしと不思議が行われている。」

ああ、神よ。

あなたは、私がこの小さな町をどれほど愛しているかをご存じです。

どうか、この町を守ってください、主よ。

主よ、どうかそれを成してください。

彼女の母親でした。

母親は言いました。

「赤ん坊はどう？

少しは良くなった？」

エメル夫人は答えました。

「いいえ……お母さん、全然……。」

そう言うと、

彼女は手を上げて泣き崩れ、

壁にもたれて、頭を預けました。

——それは、

幻の中で見た光景と、まったく同じでした。

27 私は、スネリング兄弟が座るはずだったデュオフォールドの椅子に座って
いました。

そして立ち上がり、こうして歩いて行きながら、

次に何が起こるのかを考えていました。

私は思いました。

「あの女性は、あの赤い椅子に座るはずだ。」

私は、しばらくその場に立って、様子を見ていました。

そして……考えていました。

すると、スネリング兄弟も泣き始めました。

彼女が泣いているのを見て、

帽子を取り、

そのままデュオフォールドの椅子に腰を下ろしたのです。

私は思いました。

「ああ……あと一つだけだ。

あと一つ、起こるべきことがある。」

私は、部屋の中を見回しました。

すべてが、あるべき場所にあるかを確認するためです。

そして、彼女の方を見ました。

すると、その女性は……

ああ、そうです。

彼女は、持っていた小さな手提げ袋を置き、

こちらへ下がって来て、

デュオフォールドの椅子に座りました。

そして——

眼鏡を外し、

それを拭き始めたのです。

それは、幻の中で見た通り、

まったく同じ仕草でした。

28 その時、私は——

何かが、すぐそばに立っておられるのを感じました。

私は、あの御方が、そこにおられることが分かりました。

そこで私は言いました。

「エメル兄弟。」

彼は私の方を見ました。

祈りの準備が整う間、

今、皆さん、頭を下げましょう。

天の父よ。

私たちは今日、

この聖書にあるすべての約束のゆえに、あなたに感謝します。

あなたが聖霊を下して下さったことを感謝します。

——それを持つ人々のために、

そして、この場所を提供してくれた人々のために。

神よ、私たちは祈ります。

彼ら一人ひとりが救われ、

その日に、あなたの御国にすることができますように。

彼らは親切にも、

私たちが入れるように、

その扉を開いてくださいました。

どうか、すべての人を祝福してください。

この町の医師たちを祝福してください。

看護師たちを祝福してください。

すべての医療機関を祝福してください。

神よ、

どうか人々が分かりますように。

私はここに、

苦しむ人類を助けようとして来ているのです。

♪ ただ信じなさい

♪ すべてのことは可能

(神を賛美しましょう。そうです、可能です。)

♪ ただ信じなさい

♪ 主よ、今、私は信じます(あなたは?)

♪ 主よ、私は信じます

♪ すべてのことは可能です 主よ、私は信じます

♪ 主よ、私は信じます

♪ 主よ、私は信じます

♪ すべてのことは可能です 主よ、私は信じます

聞いてください。

たとえ私が……

[※テープ不明瞭]

……裁きの場に立つことがあったとしても、

私はこう言うでしょう。

「私は、聖書のすべての約束が真実だと信じます。」

それは正しいのです。

皆さん、信じますか?

それなら……

それでいいのです。

80 それでは、頭を下げましょう。

兄弟、できれば、その和音を静かに続けてください。

私は言いました。

「あなたは、今でも私を信じていますか？」

彼は答えました。

「ブラナム兄弟、私は心からあなたを愛しています。」

私は言いました。

「今、あなたに正直に言います。

少し前にしたことを、私は悔いています。

幻は、まだ完成していませんでした。」

「でも今、

あなたが、今でも私を信じていることを示さなければなりません。」

赤ん坊は——

これ以上ないほど真っ青でした。

私は言いました。

「もし、あなたが今でも私を信じているなら、

その赤ん坊を、私のところへ連れて来なさい。」

……[テープ欠落]……

私は祈りました。

「……この幻において。

少し前にしたことを、お赦してください。

あなたのしもべをお赦してください。

そして、この赤ん坊を、

イエス・キリストの御名によって癒してください。」

29 私がそう祈った、その瞬間——

その小さな赤ん坊が、父親の首に両腕を回し、こう言ったのです。

「パパ、パパ。」

ああ……

家の中が、叫び声でいっぱいになりました。

もう、本当に大変な騒ぎでした。

それから……

人々は走り回り始めました。

私は言いました。

「今は、この子をもう一度ベッドに戻さない。

完全に回復するまで、三日かかるでしょう。

なぜなら、この子は、三歩歩いて癒しが現れたからです。」

それから私は教会に戻り、

起こったことを報告しました。

そして、三日目に、私は言いました。

「もう、このことについては、何も聞かなくていい。

三日目に、あそこへ行ってみなさい。

そうすれば、その子が床を渡って歩いて来て、

私の手の中に小さな手を置き、

『ブラナム兄弟、ぼくはすっかり良くなったよ』

と言うのを、必ず見るでしょう。」

さて……

私たちは何をすればよいのですか？

♪ ただ信じなさい

♪ ただ信じなさい

(それだけです。)

♪ すべては可能

♪ ただ信じなさい

79 私は、歌のリーダーとしては、あまり上手ではありません。

でも、心の中ではっきり分かっていることがあります。

——信じなければならない、ということです。

そうでしょう？

では、兄弟、キーをお願いします。

さあ、もう一度、皆さん一緒に。

♪ ただ信じなさい ただ信じなさい

♪ すべてのことは……

——聖書がそう言っているでしょう？

神がそう言われたでしょう？

神は、あなたにこの賜物を約束されたでしょう？

彼らは、ここにいます。

他の人たちは癒されています。

あなたは？

あなたは？

信じられませんか？

もし、まだげっぷが出続けていたとしても、
 それでも私は
 「私は癒された」
 と言い続けたでしょう。
 アーメン。
 その通りです。
 なぜなら、
 神の御言葉は正しいからです。
 皆さん、信じますか？
 それなら、歌いましょう。

♪ 聖書の約束は すべて私のもの
 ♪ すべての章 すべての節 すべての行
 ♪ 私は神の御心を 信じている
 ♪ 聖書の約束は すべて私のもの

これから祈ってもらう、
 病を持っている皆さん、
 一緒に歌ってください。

♪ 聖書の約束は(手を挙げて)すべて私のもの
 ♪ すべての章 すべての節 すべての行
 ♪ 私は神の御言葉を 信じている
 ♪ 聖書の約束は すべて私のもの

では、

どれほど多くの人が見に行ったか、想像がつくでしょう。
 教会の人たち全員です。
 道路の上下には、車がびっしりと並びました。
 私は、誰にも「行きなさい」とは言いませんでした。
 私が最初に行かなければならなかったのです。
 (分かりますね?)
 それが神から来たものであることを、
 人々がはっきり見るために。
 そして、人々は周りに集まりました。

30 私はドアに上がってドアをノックすると、母親は小さなキッチンに戻ってきました。彼女は家の中を走って来て、一そしてドアを開けて、そうしました、彼女は言いました、“ああ、ブランナム兄弟です。入ってください、ブランナム兄弟。” 言った、“彼の違いを見てください。”

彼はチョコレートミルクを飲んでいて、小さな口ひげ、つまりチョコレートミルクをつけていました。そして彼は床を横切って歩いてやって来ます。全員がそこに立って窓やあらゆるものを見えています。彼は出て行き、私はただ床に立って、何も言いませんでした。彼は歩いてきて、私の手に小さな手を当てて言いました。“ブランナム兄弟、私は完全に元気です。” ほら？

31 それから、私はその後の出来事について話し始めました。

二週間ほどたったある日、私は事務所を出ようとしていました。

いつもなら、

郵便物を入れておく小さな仕切り棚(レターケース)があるのですが、
 ハーバート・スコットという、とても立派な人物がいて、
 彼が私に言いました。

「ブランナム兄弟、下へ行く前にちょっと。

あその私の机の上に、あなた宛ての手紙が置いてあります。」

その時、私は巡回中でした。

私は言いました。

「分かりました。取って行きます。」

そして、

事務所の上階から、

下のメインフロアへ降りるために、

階段を下り始めました。

ところが——

その手紙のことで、

なぜか不思議な感覚が私を引き止めたのです。

私は足を止め、

その手紙が置いてある机の方へ戻り、

手紙を手に取りました。

差出人を見て、

封を切り、

中を読んでみると——

私は思わず言いました。

「いやはや……。」

32 こを見ると、「“私はハロルド・ネイル夫人です”と書かれていました。” 彼女は言いました。“ブランナム牧師、私には16歳の苦しんでいる女の子がいます。” そして言いました。“彼女はしばらく前からこの病気にかかっており、関節炎がこの病気に進行しています。” そして言いました、“彼女は昼も夜も泣くだけです。” そして言いました、“私はメソジスト教会に所属しています—ちよう

♪ あなたの御言葉を、そのまま受け取ります

♪ あなたの御言葉を、そのまま受け取ります

——そんなふうに。

心のすべてをもって、信じながら。

78 少し前に、こんなことを言った人がいました。

「ブランナム兄弟、あなたは嘘をついていた。」

いいえ、違います。

私は嘘なんかついていません。

断じて、嘘ではありません。

彼らは、

「体の具合はどうだったのか」

と聞いてきました。

でも私は、

「信仰がどうだったか」

を答えていたのです。

信仰はどうだったか？

素晴らしかった。

本当に、そうです。

なぜなら、

私は神を、その御言葉のままに受け取ったからです。

体がどう感じているかなんて、

私は気にしませんでした。

「最高だよ。とてもいい。」

母は言いました。

「あなた、もうすぐ死ぬわ。」

私は言いました。

「いいえ、そんなことはありません。」

私は、できるだけ早く飲み込み、

口に熱いお湯を含み、

そのまま部屋へ行きました。

気がつくと、

あの痛みは、全部なくなっていました。

私は部屋の中を歩きながら、

こう歌っていました。

♪ 私はできる

♪ 私はする

♪ 私は信じる

♪ 私はできる

♪ 私はする

♪ 私は信じる

♪ 私はできる

♪ 私はする

♪ 私は信じる

♪ イエスが、今、私を癒してくださる

ど..” すぐにお店の名前を呼びます。インディアナ州セーラムの下にあります。

インディアナ州セーラム近郊からここに来た人はいますか？後ろに誰かがいる。インディアナ州のどの地域の出身ですか、お姉さん？インディアナ州のどの地域ですか？セーラム？インディアナ州セーラム。私の.. ハロルド ネイルを知ってるか？ハロルドを知ってる？ほら、いいよ。さて、これが証拠です。さて、ここでそれを手に入れました。大丈夫。サービスが終わったら会いたいです。それは.. さて、どこにあるかお教えします.. サウスボストン。サウスボストンがどこにあるか知っていますか？それは.. よし。さて、私たちは証拠と話を並べました。先日、私は… 人々が近くにいるのが好きです。よし。

33 さて、私はその手紙を下へ持って行きました。

そこには、こう書いてありました。

「私は、インディアナ州セーラム、

あるいはサウス・ボストンに住んでいます。」

そして、こう続けていました。

「私たちの牧師が来て、

祈祷会を開きました。

その祈祷会で、誰かが

『イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です』

という小さな本を持って来たのです。」

「私たちは、その小さな本を読み、

癒しについて書かれている部分を読んでいました。

すると、あなたに来ていただいて、

この娘のために祈ってもらうように、

心が強く動かされたのです。」

そして――

彼女が書いていたその日付を見ると、それは、私にあの幻が与えられた夜と、まったく同じ夜だったのです。分かりますか？

確かめてみてください。

私は家に帰り、妻に言いました。「これを見てごらん。」

妻は言いました。「ええ……。」

それって、あの幻のことじゃない？」

私は言いました。「その通りだ。」

その夜の教会の祈祷会で、私はその手紙を持って行き、皆に見せました。

すると、誰も彼もが、行きたいと言い出しました。

その中に、ブレイスという名前の人たちがいました。

アド・ブレイスという人です。

34 私は、彼らのことを何度も探しました。

もしかすると、今日この集会に来ているかもしれません。

テキサスから来たアド・ブレイスさんは、ここにいますか？

一年以上、固形物を食べていなかったのですから。

最初の一口を飲み込んだとき、それが、すぐに戻って来ました。

私は、吐かないように、手で口を押さえました。

それでも、もう一さじ取って、とうとう、皿いっぱい全部食べました。

食卓から立ち上がったとき、私は、ただ手で口を押さええているしかありませんでした。

酸が、これ以上ないほど、強く込み上げてきたのです。

母は医者に電話しました。

医者は言いました。「彼は死にます。それだけです。一口で死ぬと言ったでしょう。」

私は、床を横切って歩いていました。

母は言いました。「あなた……どう？ 具合は？」

私は言いました。

「信仰を持つのは構わないよ、あなた。
でもね……お医者さんは、
それを食べたら死ぬって言っているのよ。」
私は言いました。
「でも、神は、私は生きると言われた。」
[※テープ不明瞭]
「もし、私が死ぬなら……」
[※不明瞭]
「そのときは、あなたの家に行きます。」
「そして、あなたの家の戸口でお会いするとき、
私はこう言います。
『私は、あなたの御言葉を信じて死にました』と。」
「私は、医者に十分頼ってきました。
でも、医者は、私を良くすることができませんでした。」
それから私は、
大きな一口で豆と玉ねぎをすくい、
コーンブレッドを、がぶっと噛みました。
そして、食べ始めたのです。
噛んでみると……
なかなか、うまかった。
ちょっと変な味はしましたが……
だって、

あるいは、彼をご存じの方はいませんか？
彼らは癒しを求めて来た人たちでした。
ブレイス夫人は、結核を患っていたのです。
それで、彼らも一緒に行きたいと言いました。
そこで私は言いました。
「まず、サウス・ボストンはどこにあるんですか？」
誰かが、その場所を教えてくださいました。
それで私は出かけました。
ニュー・オールバニの下の方へ行きました。
インディアナ出身の方、分かりますよね？
私はニュー・オールバニの下をずっと進みました。
すると、そこにあったのは——
サウス・ボストンではなく、ニュー・ボストンだったのです。
私は思いました。
「あれ？ これはおかしいな。ニュー・ボストンだ。」
私は、サウス・ボストンという地名を聞いたことがありませんでした。
それで、引き返しました。
すると、川沿いに住んでいる
ワイズハートという年配の漁師がいました。
彼が私に言いました。
「いや、サウス・ボストンは、もっと向こうだよ。
インディアナ州セーラムの方へ行くんだ。」

35 それで私は、ヘンリービルまで行って、そこで曲がることにしました。
 人々が、「ヘンリービルで曲がるんだ」と教えてくれたからです。
 皆さんもご存じでしょうが、
 ヘンリービルから先へ続くあの道は……
 まあ、本当にぬかるんだ、ひどい道でした。
 それでも私は、
 あの古い砂利道に戻って、
 そのまま進み続けました。
 その時——
 一緒にいた人たちが、ある歌を歌い始めたのです。
 彼らはペンテコステの人たちで、
 私にその歌を教えようとしていました。
 歌は、こんな内容でした。
 ほとんどどこにでも人がいる
 その心は炎で燃えている
 ペンテコステの日に下った火が
 彼らをきよめ、清くした
 今、その火は私の心の中で燃えている
 ああ、主の御名に栄光あれ
 私もその一人だと言えることが、
 なんと嬉しいことだろう
 ——こんな歌です。

♪ 私はできる
 ♪ 私はする
 ♪ 私は信じる
 ♪ 私はできる
 ♪ 私はする
 ♪ 私は信じる
 ♪ 私はできる
 ♪ 私はする
 ♪ 私は信じる
 ♪ イエスが、今、私を癒してくださる
 ♪ あなたの御言葉を、そのまま受け取ります
 ♪ あなたの御言葉を、そのまま受け取ります
 ——そんなふうに。
 心のすべてをもって、信じながら。

77 母は言いました。
 「うちでは、今まで食事の前に祈ったことなんてなかったわね。」
 父は……父はカトリックでした。
 それで私は言いました。
 「じゃあ、今日は私が祝福を祈るよ。」
 あのとときの、年老いた父のことは、今でも忘れません。
 父は、泣いていました。
 母は言いました。

母は医者に電話しました。
医者は言いました。
「彼は死にます。
それだけです。
一口で死ぬと言ったでしょう。」
私は、床を横切って歩いていました。
母は言いました。
「あなた……どう？
具合は？」
私は言いました。
「最高だよ。とてもいい。」
母は言いました。
「あなた、もうすぐ死ぬわ。」
私は言いました。
「いいえ、そんなことはありません。」
私は、できるだけ早く飲み込み、
口に熱いお湯を含み、
そのまま部屋へ行きました。
気がつくと、
あの痛みは、全部なくなっていました。
私は部屋の中を歩きながら、
こう歌っていました。

聞いたことがありますか？
彼らは、その歌を私に教えようとしていたのです。
その歌詞の中には、
足の不自由な人が歩くようになったとか、
そんな内容も含まれていました。
私は、それがとても良いと思いました。
それで私は言いました。
「さあ、もう一度歌おう。」
私たちは、
そうして歌いながら、
道を進んで行ったのです。
36 すると突然——
何かが私を打ったように感じて、
私はほとんど動けなくなるほどでした。
私は、
「自分が具合でも悪くなったのだろうか」
と思いました。
それで車を止めました。
私は小さな丘の上にいました。
左手の方を見ると、教会が一つありました。
私は思いました。
「もしかすると、主の御使いかもしれない。」

教会のそばを通っているのだから。」

私は車を降り、

車の後ろへ回りました。

乗っていたのは、古いフォードのランナバウトでした。

私は、

後ろのトランクのあたりに足を置いて立ち、

こう思いました。

「一体、何なのだろう。」

その時——

ふと、左の方を見ました。

そこには——

墓地があったのです。

……[テープ欠落]

37 「その紙を私に見せてください。」

そう言うと、彼女が紙を持って来ました。

私たちは墓石に刻まれた名前と番号を確かめました。

すると——

それは、まさにその場所だったのです。

私は言いました。

「ここだ。

この道で間違いない。

私たちは、正しい道にいる。

「私は、医者に十分頼ってきました。

でも、医者は、私を良くすることができませんでした。」

それから私は、

大きな一口で豆と玉ねぎをすくい、

コーンブレッドを、がぶっと噛みました。

そして、食べ始めたのです。

噛んでみると……

なかなか、うまかった。

ちょっと変な味はしましたが……

だって、

一年以上、固形物を食べていなかったのですから。

最初の一口を飲み込んだとき、

それが、すぐに戻って来ました。

私は、吐かないように、

手で口を押さえました。

それでも、

もう一さじ取って、

とうとう、皿いっぱい全部食べました。

食卓から立ち上がったとき、

私は、ただ手で口を押さええているしかありませんでした。

酸が、これ以上ないほど、

強く込み上げてきたのです。

うに、私たちはそれをカットしません。イエスはパンを裂いて祝福されました。それで私たちはそれを打ち出します...そして、手を伸ばして破片を折ってください。それで私は...

76 母は言いました。

「うちでは、今まで食事の前に祈ったことなんてなかったわね。」

父は……父はカトリックでした。

それで私は言いました。

「じゃあ、今日は私が祝福を祈るよ。」

あのとときの、年老いた父のことは、今でも忘れません。

父は、泣いていました。

母は言いました。

「信仰を持つのは構わないよ、あなた。

でもね……お医者さんは、

それを食べたら死ぬって言っているのよ。」

私は言いました。

「でも、神は、私は生きると言われた。」

[※テープ不明瞭]

「もし、私が死ぬなら……」

[※不明瞭]

「そのときは、あなたの家に行きます。」

「そして、あなたの家の戸口でお会いするとき、

私はこう言います。

『私は、あなたの御言葉を信じて死にました』と。」

今、私を止めたのは、主の御使いだっただの。」

私は、

その墓地の前を通り過ぎていたのに、

気づかずに行ってしまふところだったのです。

分かりますか？

皆さんもご存じでしょう。

バンカー・ヒル墓地が、あそこにありますよね。

私は、その地方に行ったことが一度もなく、

何も知りませんでした。

それでも、私はそのまま進み続けました。

すると、

小さな給油所のそばで、

一人の男性が立って、

タバコを巻いているのが見えました。

私は声をかけました。

「ここは、サウス・ボストンへ行く道ですか？」

彼は答えました。

「そうだよ。そのまま、まっすぐ行きな。」

私は尋ねました。

「ハロルド・ネイルという人を知っていますか？」

彼は答えました。

「知ってるよ。」

「分かりました。」

そう言って、私は先へ進みました。

そして私は言いました。

「この先、サウス・ボストンに着くと——

青いオーバーオールを着た男が出て来る。

黄色いコーデュロイの帽子をかぶり、

白い口ひげを生やしている。」

「彼は、正面が黄色い小さな店から出て来る。」

すると……

ブレイス夫人が言いました。

「ブラナム兄弟……

私は、こんなこと、今まで一度も見たことがありません。」

そして続けて言いました。

「もう、何と言っていいのか分かりません。

あの墓地で見た名前のことを思うと……。」

彼女は、

どうしても、その出来事が頭から離れなかったのです。

それほどまでに、衝撃的なことだったのです。

38 それで、私たちはそのまま進みました。

道を下って行き、いくつかのカーブを曲がるうちに、

私は少し道が分からなくなっていました。

すると、そばにいた人が言いました。

——そんなことに、

一切、注意を払ってはいけません。

もし、これが本当に

神からの賜物だと信じるなら、

立ち上がりなさい。

どう感じようと関係ありません。

喜びなさい。

神を賛美しなさい。

それは、もう去ったのです。

——それだけです。

あなたは、知っているのです。

75 胃の調子が悪くて治ったとき、私はそこで胃を押さえていたのを覚えています。そして、私が祈られたとき、私のために祈ってくれる癒しの才能を持った人は誰もいませんでした。長老は私に油を注いでくれました。彼は私に言いました。… 聖書で読んだ。神の言葉が正しいのを見ました。そして、彼には権利があったことを私は知っています。彼はバプテストの説教者でしたが、やって来て私に油を注いで言いました“聖書にはそう書かれていました”彼は私の頭に油を注いでくれました。言った、“さて、あなたは元気になると信じていますか？”

私は言いました、“…?… 神様、私は心から尋ねています。元気になってくれ。”私はすぐに家に帰って食事を始めました。私は大麦水とプルーンジュースを約3、4か月間飲んでいました。医者には言いました。“一口固形物を食べたら、今すぐに死んでしまいます。”私が何をしたか知ってる？私はすぐに家に帰り、夕食にコーンブレッド、豆、玉ねぎを食べました。

そんな風に食べたことがあるかどうかは分かりません。坊や いいぞ。今なら我慢できるよ。そして… お母さんが焼いた。… 母は大きな古いポーンを入れてそのように焼きました。そして、私はいつも、それが素晴らしく、脂っこく、脆いコーナーを手に入れます。

つまり、私たちはまだパンを割るのに十分なバプテスト派です。ご存知のよ

はは……
おそらく、その人は
これからも良くなった“感じ”はしないでしょう。
その通りです。
信じていないからです。
イエスは、決して
「感じましたか？」
とは言われませんでした。
イエスが言われたのは、
「信じましたか？」
です。
あなたが信じ、
信仰によって“それを知る”なら、
そして、
御使いによるこの啓示が来るとき、
地獄中の悪霊を集めても、
それを止めることはできません。
ですから、
こう言い回ってはいけません。
「ここ二、三週間、ずっと具合が悪いんです。
祈ってもらったけど、
ちっとも良くなった感じがしません。」

「インディアナの道は、そんなもんですよ。
右に折れて、左に折れて、ってね。」
どうやら、私は間違った分かれ道に入ってしまったようでした。
それでも、その人は言いました。
「そのまま、まっすぐ行けばいい。」
そこに、別の男性が立っていて、こう言いました。
「サウス・ボストンなら、
あと四、五マイルくらいだよ。」
私たちは車を走らせながら、話を続けていました。
しばらくすると——
小さな場所に出ました。
私は、そこを通り過ぎました。
すると私は言いました。
「あそこだ。
今のが、その場所だ。
ほら、そこにある。」
それは、
田舎道が少し広くなったような場所で、
本当に小さな集落でした。
私は言いました。
「あそこだよ。
あれが、黄色い正面の店だ。」

見ていなさい。」

私たちは、少し先まで進みました。

すると——

店の中から、一人の男が出て来ました。

彼は、

青いオーバーオールを着て、

黄色いコーデュロイの帽子をかぶり、

白い口ひげを生やしていました。

その瞬間——

ブレイス夫人は、車の中でそのまま倒れ、気を失ってしまいました。

彼女は……

もう、何が起きているのか分からなかったのです。

39 私は言いました。

「ほら、あの人だ。あの人がその人だ。」

そして言いました。

「今、見ていなさい。

主の力が彼のすぐ近くにあるから、

彼は少し妙な様子になるはずだ。」

私は車を近くまで寄せて、声をかけました。

「すみません。

ハロルド・ネイルさんの家を教えてください。」

すると、その年配の男性の唇が、ぶるぶると震え始めました。

分かりますか？

それが、信仰です。

望んでいる事柄の実体。

74 いいですか。

これは、

「信じているつもり」

「そう思っている」

という話ではありません。

あなたは“知っている”のです。

信仰とは、

望んでいる事柄の実体であり、

見えないものの証拠です。

——見えない。

——味わえない。

——触れない。

——嗅げない。

——聞こえない。

それでも、

もし信じているなら、もう“そこにある”のです。

ある人たちは、こう言って帰って行きます。

「うーん……先週祈ってもらったけど、

あんまり良くなった気がしないな。」

あなたの“信仰という感覚”が、
「この賜物は神から来ている。
そして、私は癒される」
と告げるなら、
それはちょうど、
あなたの視覚が
「あれは白いシャツだ」
と告げるのと、全く同じ確かさなのです。
そのとき、あなたは
ここを通るとき、必ず受けます。
分かりますか？
さて、ここです。
もしあなたが、
人間的な部分を信頼できるなら、
どうして
超自然的な部分を信頼しないのですか？
もし、肉体を信頼できるなら、
どうして
霊を信頼しないのですか？
霊は、肉体よりも優れているからです。
アーメン。
——そこです。

彼は言いました。
「……はい。」
そして続けて言いました。
「この先をまっすぐ行って、
あの道を下ってください。
右側の三軒目の家です。
丘の上に、大きな赤い納屋がある家ですよ。」
私は言いました。
「ええ、分かりました。」
彼は不思議そうに尋ねました。
「どうして、その家を？」
私は言いました。
「その人には、
とても具合の悪い娘さんがいるのではありませんか？」
彼は答えました。
「ええ、います。」
私は言いました。
「その娘さんは、癒されます。」
すると——
大きな涙が、その老人の頬を伝って流れ落ち始めました。
私たちは、そこで車を回しました。
ブレイス兄弟は、

ブレイス姉妹に声をかけながら、
手で彼女の顔をさすっていました。
そして私たちは、
道に戻り、
教えられた道へ曲がり、
その家へと向かって行ったのです。

40 すると、少しふくよかな体格の女性——ネイル夫人が、家から歩いて出て来ました。

彼女は言いました。
「あなたは、あの本に載っていた写真で見た通りです。
ブラナム兄弟ですね。」
私は答えました。
「はい、そうです。」
彼女は言いました。
「どうぞ、中へ入ってください。」
私たちは中へ入りました。
皆も一緒について来ました。
そして——
中へ入ると、まさにその通りでした。
私は言いました。
「さあ、今から部屋の中をよく見てください。」
ドアを入るとすぐに、
大きな古いチャンク・ストーブが置いてありました。

これは、確かなことです。
あのシャツは白いですか？
それなら、癒しも同じように、そこにあるのです。
——もし、あなたが信じるなら。
[※テープ不明瞭]
実体です。
単なる「望み」ではありません。
多くの人は、
「まあ、そのうち良くなるでしょう」と言います。
しかし、千人に九百九十九人は、
信仰の第一原則さえ、知らないのです。
それは本当です。
彼らは、信仰ではなく、希望を持っているだけです。
しかし、
信仰は、はっきりしたものです。
確かなものです。
73 ああ……本当にそうなんです。
「起こる」と分かるときがあるのです。
もし、あなたが
「今日の午後、自分は癒される」
と分かっているなら——
いいですか、ここをつかんでください。

できません。
触ることができますか？
できません。
それでも、
「音楽が鳴っている」と、どうして分かるのですか？
——聞いているからです。
そのとおりです。
さて、兄弟姉妹。
信仰とは、望んでいる事柄の実体であり、
見えないものの証拠なのです。
あなたは、
見えない。
味わえない。
触れない。
嗅げない。
聞こえない。
それでも、あなたは知っている。
それが、信仰なのです。
ああ……
神が皆さんを祝福してくださいますように。
本当に、これを分かってもらえたらと思います。
いいですか、友よ。

壁には、
『神よ、私たちの家を祝福してください(God Bless Our Home)』
という看板が掛かっていました。
そこには、
大きな柱付きのベッドがあり、
その上に、少女が横たわっていました。
彼女は、どちらかというとなの子のような顔つきで、
少し荒れたような印象がありました。
関節炎のために、両手は縮こまり、
足もねじれた状態でした。
壁紙は、
黄色地に赤い模様のものでした。
それを見た瞬間——
ブレイス夫人は、またしても気を失ってしまいました。
その場に、崩れるように倒れたのです。
目の前で起こっていることが、
あまりにも現実そのものだったからです。
41 さて……すると、何か不思議なことが起こったように感じました。
私の霊というか、存在というか、何かが——
外へ出たような感覚があったのです。
私は、その若い娘のところへ歩み寄り、
彼女のお腹の上に手を置いたのを覚えています。

そして私は言いました。

「主はこう言われる(THUS SAITH THE LORD)。

姉妹よ、あなたは癒されます。」

そう言って、祈り始めました。

すると、祈っている最中に――

小さな声が聞こえました。

「主をほめたたえます。」

それは、彼女自身の声でした。

彼女は、その病のために、昼も夜も泣き続けていたのです。

私は気づきました。

彼女の手は、元どおりになっていました。

足も、まっすぐになっていました。

彼女が体を起こすと、

パジャマのズボンの裾が上がり、

丸い膝が見えました。

それを見た瞬間――

ブレイス夫人は、また倒れてしまいました。

床に崩れ落ちたのです。

その時、誰かが叫びました。

「お母さん! お母さん!」

その少女は、

自分の足で部屋を出て行き、

味わっていますか?

[※テープ不明瞭]

匂いを嗅いでいますか?

[※テープ不明瞭]

では、どうして

「音楽が鳴っている」と分かるのですか?

――聞いているからです。

これが、聴覚という感覚です。

わかりますか?

72 さて、こう言う人がいるでしょう。

「あなたは、それを聞いていない。」

いいえ、聞いています。

もう一度弾いてください、兄弟。

私は確かに聞いています。

皆さんも、聞いていますね?

なぜ分かるのですか?

――聞いているからです。

見えてはいません。

でも、聞いています。

音楽を見ることはできますか?

できませんね。

音楽を味わうことができますか?

しかし、それでも
その感覚が間違っている可能性はあります。
それでもなお、
私は心から信じて彼がそこに立っていると知っています。
なぜなら、触覚という感覚が
「そこにいる」と告げているからです。
さて、ここで注目してください。
(ピアノの方へ歩く)
私は、もう一つの感覚を持っています。
これを見てください。
(音を上下に弾く)
[兄弟がピアノの鍵盤を適当に弾く]
私は音楽を聞いています。
この部屋に、音楽があります。
(兄弟、そのまま、どこでもいいから鍵盤を弾き続けてください)
どれくらいの人が、これを聞いていますか？
どれくらいの人が、
「音が鳴っている」と知っていますか？
私は、それを見えていますか？
いいえ。
触っていますか？
いいえ。

服を着替えて戻って来ました。
そして、
かつて不自由だったその手で、
自分の髪をとかしていたのです。
足も、もう不自由ではありませんでした。
彼女は、
今もインディアナ州セーラムに生きています。
あなたは彼女をご存じですか、姉妹？
お名前は？
——ローレルさん。セーラム、インディアナ州から？
ネイル夫人をご存じですか？
その娘さんも、この出来事も？
——はい、ここに証人がいます。
では皆さん、
「主をほめたたえましょう！」
ところで……
あなたは、どうしてこんな田舎に来ているのですか？
いい所でしょう？
本当に、素晴らしい所です。
セーラム、インディアナ州からですか。
私の家からだと……
だいたい30マイルか33マイルくらいでしょう。

分かりますか？

これも、神がご自身の道を通して、

これらのことを成し遂げられる一つの例にすぎません。

42 もし、あとほんの数分いただけるなら、

今、私の心にあるもう一つの証しをお話ししてもいいでしょうか。

できるでしょうか。

それを聞きたい方は、

「アーメン」と言ってください。

こういう話は退屈ですか？

聞きたい方は、「アーメン」と言ってください。

(会衆:「アーメン」)

それは、アーカンソー州リトルロックで起こった出来事です。

リトルロックの牧師、G・H・ブラウンをご存じの方はいますか？

ここに、どなたかいらっしゃいますか？

……はい、いますね。

彼をご存じですか？

——よろしい。

この証しについては、

ぜひ彼に直接手紙を書いて確かめてください。

また、

先ほど後ろにおられたあのご婦人にも、

直接お聞きになって構いません。

でも、それでも私は感じている。

ある時は、

感じていなくても、見ている。

分かりますか？

これが感覚です。

感覚は、直接的なものです。

そして、いわば完全なのです。

——人が「完全」と呼ぶ意味において、です。

71 しかし、そこで私が間違っている可能性はありますか？

——あります。

たとえば、私が色盲かもしれない。

その上着……

あなたが色盲かもしれない。

そうでしょう。

実際には、

全く違う色かもしれないし、

白いシャツを着ていないかもしれない。

それでも、あなたは

「間違いなく白だ」と言い切るでしょう。

では、私は彼を感じているのでしょうか？

私は言います。

「彼はそこに立っている。なぜなら、私は感じているからだ。」

[※テープ不明瞭]

白いシャツを着ていますね。

私が正しいと、信じますか？

いいですか。

今、私が彼がそこに立っていると知っているのは、

見ているからです。

そうでしょう？

では、質問します。

私が、彼がそこに立っていると知る方法は、

見る以外にありますか？

ありませんね。

それが唯一の方法です。

さて、ここを見てください。

今、私はその人を見ていません。

でも、彼はまだ、そこに立っています。

では、どうやって分かるのですか？

——感じるからです。

これが、触覚です。

触覚を持っている人なら、

誰でも同じように分かります。

「いや、私は見ていないじゃないか」と

私と議論する人がいるかもしれません。

それから、

インディアナ州サウス・ボストンの

ハロルド・ネイル夫人にも、

あるいは、

インディアナ州ユーティカ、RFD2の

ジョン・エメル氏にも、

手紙を書くことができます。

そして、

これからお話しする証しについては、

次の方にお書きください。

G・H・ブラウン牧師

アーカンソー州リトルロック

ヒッコリー通り505番地

これからお話しする証しは、

できるだけ手短にお話しします。

そのあと、短く祈り、

そして祈りの列に入ります。

43 今日ここにいて、祈ってもらいたい方はどれくらいいますか？

手を挙げてください。

……[テープ欠落]……

祈りの列についてですが、

私はいつも、

そこで起こることを「失敗」だとか、
「たまたま」だとか、
そういうふうには呼びません。
それは、その人の信仰と、大いに関係しているからです。
しかし、友よ——
主が私をある場所へ遣わされる時は、
その人が、たとえ五十年間墓の中にいたとしても、
よみがえるでしょう。
なぜなら、神がすでに語られているからです。
それは、必ずそうならなければなりません。
そして……
これは、私が今ここに立っているのと同じくらい、
真実なのです。
聖書はこう言っています。
「二人または三人の証人の口によって、
すべての言葉は確立される。」
そうではありませんか？
さあ、あなた自身が確かめなさい。
44 これが、賜物が本来働くべき形なのです。
いいですか、ここをよく見てください。
この賜物は、私の熱心な祈りによって与えられたものではありません。
賜物というものは、

では、肉体には、感覚はいくつありますか？
——味覚、触覚、嗅覚、聴覚、視覚。
五つです。
では、霊には、感覚がいくつありますか？
二つです。
信仰と疑い。
あなたは、一人で二人ですか？
——いいえ。
あなたには魂があります。
魂は、霊の性質です。
しかし、あなたは体と霊を持っています。
そうでしょうか？
あなたは肉体を持ち、
その内側に霊がある。
そして——
内なる人が出て行くと、
外なる人は死にます。
そうでしょうか？
（※テープ不明瞭）
70 さて、いいですか。
私は、今ここに、暗い上着を着た男性が立っていると信じています。
私が正しいと思う人は、どれくらいいますか？

——分かりますか？

69 あなたを本当に助けることができるのは、あなた自身の信仰だけです。

あなたの信じる心、神への信仰です。

分かりますか。

信仰がなければ、不可能なのです。

それは真実でしょう？

ですから、ここを通るとき、

「自分は癒される」と心から信じるなら、

あなたは癒されます。

しかし、もし信じていなければ、

何が起ころうとも、癒されません。

心から信じない限り、癒しは来ないのです。

さて、見てください。

ここにいる皆さんの中で、

「私は白いシャツを着ている」と言う人は、どれくらいいますか？

どうして、私が白いシャツを着ていると分かるのですか？

——見ているからです。

それ以外に、知る方法はありません。

本当に白いと、確信していますか？

では、考えてみましょう。

視覚は、肉体の感覚ですね？

視覚は、感覚の一つです。

熱心な祈りによって生まれるものではないのです。

賜物は、神によってあらかじめ定められ、

任命され、遣わされるものなのです。

ここで一つ思い出してください。

ジェファーソンビルからレイビルへ渡る

ミュニシパル・ブリッジをご存じでしょう。

姉妹、あなたもきっとご存じですね。

今から二十二年前、

私がまだ五歳か六歳の、小さな子どもだった頃のことです。

水を運んでいた時、

主の御使いが茂みの中に現れた出来事を、

あなたも聞いたことがあるでしょう。

その二週間ほど後、

私は弟と一緒にビー玉遊びをしていました。

すると、突然、

とても不思議な感覚が私に起こり、

「具合が悪くなったのではないか」と思いました。

私は、

木のそばに座り、

川の方を見下ろしました。

すると——

川を横切る、大きな橋が見えたのです。

それは、非常に大きな橋でした。

私は、

その橋から十六人の男が落ちて、溺れ死ぬのを見ました。

私は家に帰り、

母にそのことを話しました。

「見たんだ」と言いました。

しかし周りの人たちは、

「この子はおかしいのではないか」

「神経質で、ヒステリー気味なのだろう」

と思いました。

ところが――

それから二十二年後、

まったく同じ場所に、

あのミュニシパル・ブリッジが架けられ、

そこで実際に十六人の命が失われたのです。

分かりますか？

それは、

私が何かをしたからではありません。

神が送られたものなのです。

あなたの祈りがそれを生んだものではありません。

――そうではなく、

神が定め、神が遣わされたのです。

「主はこう言われる」なのです。

さて、私たちがこれらの集会に来るとき、

私は振動を感じ取ります。

時には、その振動に向かって祈り、

神が私の祈りを尊び、

それを取り去ってくださることもあります。

それは事実です。

しかし――

もし、あなたと神との間に、何かがあるなら、

それを正さない限り……

もし、あなたの信仰が弱く、

ただ「順番がゆっくり回ってくるのを待っているだけ」なら……

もし、信仰がきちんと整っていなければ、

それはまた元に戻って来てしまうのです。

一度は離れても、

どこかへ行って、

そして、また戻って来る。

私は、これを、皆さんには今まで話していませんでした。

しかし、私は祈祷列を通して来る人たちのために祈り、

それを、どこか別の所へ行かせ、

十五分後に戻って確認すると――

また元に戻っているのです。

South Boston, Indiana

John Emmel

Utica, Indiana, RFD 2

—これらの証しのためにです。

一つの事例、また一つの事例……

神は、同じことを、繰り返し、繰り返し、なさるのです。

68 さて、主の御使いがあのように語られるとき、

それに逆らって立ち向かえるものは、何一つありません。

それは、絶対なのです。

では、私の信仰か、ですって？

いいえ。

私は、それが必ず起こると知っているのです。

もう、それ以上、何も言う必要はありません。

必ず起こるのです。

たとえ、その人が二十年間、墓の中に死んでいたとしても、

もし主が

「そこへ行って、語れ」

と言われたなら、

私は、その祈りが拒まれるくらいなら、

天がその軌道から揺り動かされるだろうと信じます。

—神は、それをなさいます。

それが、本当の意味での

45 もしかすると、

今この建物の中に座っている人の中から、

「自分は神から遣わされた預言者だ」と名乗る人が出て来るかもしれません。

立ち上がって、何かを主張するかもしれません。

こうしたことには、

たいてい多くの熱狂主義(ファナティシズム)が伴うものです。

それには注意しなさい。

私は、それが起こる前に、

前もってあなたがたに警告しているのです。

しかし——

神は、ご自身の賜物について、

必ずご自身で証しをされます。

そうではありませんか？

神ご自身が、それを証明されるのです。

さあ、ここに注意してください。

よく耳を傾けてください。

先日、私があなたがたに話した、

リトルロック(アーカンソー州)で癒された、

あの狂気の状態にあった女性の話を覚えていますね。

彼女が後ろに反り返っていた、

あの女性の癒しの話です。

私がそれを話したのを、覚えているでしょう。

その後、
ブラウン兄弟から、私を迎えに来るという電話がありました。
そして、同時に
テネシー州メンフィスからも電話がかかって来ました。
ここに、テネシー州メンフィスから来ている方はいますか？
あるいは、テネシー州の方は？
——たくさんいらっしゃいますね。
外にテネシー州のナンバープレートの車が見えたので、
そう思いました。
さて、
この出来事はメンフィスで起こったことです。
しかも、
それは、あなたがたの郵便局長に起こったことなのです。
それから……
兄弟姉妹、
アーカンソー州で、その出来事が起こった場所の名前は何でしたか？
——そうです。
ポール・モーガンの娘さんの件が起こった場所です。
アーカンソー州ウォールナット・リッジです。
ここに、
ウォールナット・リッジ周辺から来ている方はいますか？
あるいは、

朝食にハムと卵を食べ、
家に帰り、
そして仕事に戻りました。
今も、そこで元気に生きています。
なぜか？
それは「主はこう言われる」だったからです。
——分かりますか、私の言っていることが。
さて、フェニックスの皆さん。
ここが大切なところですよ。
これこそが、神がこの賜物を用いられる方法なのです。
完全に、正しく働くときの姿です。
皆さん、分かりましたか？
分かった人は、「アーメン」と言ってください。
(会衆)
「アーメン。」
では、覚えておいてください。
その人の証しを得るために、手紙を書いてください。
G. H. ブラウン牧師
Victor Street
Little Rock, Arkansas
それから、
Harold Nail

次の移動の途中だったと思いますが、私は、あるレストランに座っていました。すると、一人の女性が近づいて来て、私の隣に座りました。

そして言いました。

「覚えていますか、ブラナム兄弟？」

私は……

その瞬間、

本当に、その場で倒れそうになりました。

私は言いました。

「いいえ……すみません。

覚えていません。」

彼女は言いました。

「あなたが祈ってくださったんです。

私はポリオだったんです……

あのとき……あそこで……」

[※テープ不明瞭]

——主は、御自分の御言葉を、

一つも失われることはありません。

67 それから二日目——

その人はもうベッドから起き上がり、

ひげを剃り、

ウォールナット・リッジのポール・モーガンをご存じの方は？

ご存じの方は、手を挙げてください。

……はい。

それなら、その出来事をご存じのはずです。

それで結構です。

アーカンソー州ウォールナット・リッジでの出来事です。

46 その時、私はアーカンソー州コーニングで集会をしていました。

ちょうど、ウォールナット・リッジの件が持ち上がった頃のことです。

人々は、もうあちこちに横になっていました。

皆さんもご存じでしょう、

アーカンソーの人たちは、天候なんて気にしません。

雨が降ろうが何だろうが、

とにかく人を連れて来るのです。

通りのあちこち、

教会の周り、

牧師館の周り——

そこら中に人が横たわっていました。

私はその頃、

昼も夜も続けて奉仕していました。

それが、

今の私がこうなっている理由です。

分かりますか。

完全に消耗してしまったのです。
最初の頃は、
集会に決まった終了時間などありませんでした。
教会が、
夜通し私を働かせ続けたのです。
そんな中で、
電話が鳴り続けていました。
鳴って、鳴って、
とにかく止まらなかったのです。
その電話を取っていたのが、
ネリー・リッグス夫人でした。
——リトルロックではなく、
コーニングにいた時のことです。
彼女は相手にこう言っていました。
「申し訳ありませんが、今は起こせません。」
「やっと、ベッドに入ったところなんです。」
ところが、その男性は
どうしても引き下がりませんでした。
あまりにも執拗だったので、
私は言いました。
「私が代わります。
その人と話させてください。」

ああ……
彼女は、もう酸素テントの中へ飛び込むようでした。
そして叫びました。
「お父さん! お父さん! お父さん!」
そう言いながら、
彼の首に腕を回して、
抱きしめて、抱きしめて……。
私は、そっと、そのまま部屋を出ました。
中では、もう大変なことになっていましたから。
そのまま階段を下り、
まっすぐ飛行機へ向かいました。
飛行機に向かう途中、
アッセンブリーズ・オブ・ゴッドの人たちが、
たくさん集まっていた。
どこから来たのか分かりませんが、
祈りの列ができていたのです。
そこに、
小さな女の子がいました。
ポリオで、歩けませんでした。
ピアノのところまで、
抱えて連れて来られていたのです。
それから——

彼が私の手をぎゅっと握ったのを感じました。

「ああ、神はここにおられる。」

私は、はっきり分かりました。

彼は、私の手を、確かに握り返したのです。

少し、力を込めて。

やがて、私は顔を上げました。

すると、彼が唇を動かして、

湿らせているのが見えました。

彼女は、まだベッドの足元で泣いていました。

私は、ほんの少し待ちました。

すると、やがて彼が、こんなふうに、こちらを見たのです。

私は言いました。

「……私が分かりますか？」

66 すると彼女は、はっとして、ぱっと起き上がりました。

そして見たのです。

彼が、こんなふうに――

手で身体を支えながら、

頭を持ち上げて、私を見ているのを。

私は言いました。

「私が分かりますか？」

彼は言いました。

「はい。ブラナム兄弟です。」

すると彼女は言いました。

「ポール・モーガンさんです。」

47 彼は何をしている人だったか、兄弟？

アーカンソー州では、彼は何の役職でしたか？

郡の徴税官でしたか？

……いや、その当時は違いましたね。

市の書記、あるいは郡の書記官(カウンティ・クラーク)でした。

それで、私は電話に出ました。

彼は言いました。

「私は、ウォールナット・リッジの郡書記官です。」

(そこは、私がいた場所から約70マイルほど南です。)

そして言いました。

「神の大いなる御業について聞きました。

どうか、私の娘のために奇跡を行いに来ていただきたい。」

私は言いました。

「モーガンさん、

私は奇跡を行うことはできません。

癒されるのは、神です。」

彼は言いました。

「ええ、それは承知しています。

ですが、どうか聞いてください。」

「私の娘は、今、死にかけているのです。」

「非常に重い状態で、
あと二、三時間も生きられないだろうと
言われています。」
そして続けました。
「私は、この子を本当に愛しています。
この子は、私の一人娘です。
年は、十二歳くらいです。」
「どうか……来ていただけないでしょうか。」
私は言いました。
「モーガンさん、
喜んで行きたい気持ちはあります。
ですが、少し聞いてください。」
「今ここには、
小さな赤ん坊を抱いた人たちが、
玄関先に立っています。」
「彼らは、一晩中雨の中に立っていて、
ずぶ濡れなのです。」
「混雑して、
中に入ることもできない状態です。」
すると彼は言いました。
「そのことは分かっています。
本当に感謝しています。」

「聞こえますか？」
すると彼女が言いました。
「もう二日ほど、意識がないんです。」
私は彼女に言いました。
「あなたは……
私の言うことを、少しも疑っていませんね？」
彼女は言いました。
「いいえ、まったく疑っていません。」
——とても立派な、信仰深い女性でした。
私は彼の手をしっかりと握り、祈りました。
「愛する神よ。
今朝、幻の中で私に語られたあなた。
私は知っています。
この人たちは、アーカンソー州ジョーンズボロの集会で、
私と会うことになっているのです。
なぜなら、私はあの演壇に立っていて、
そこに、この男性と女性がいたからです。」
「今、神の御使いが語ってください。」
すると、
あの振動が、ずっと離れていくのを感じました。
私は、そのまま祈り続けました。
そのとき、

「さあ、聖書を取って、
この箇所を開いてください。」
それは、
先ほどイザヤ書で見た、あの箇所でした。
彼女は読み始めました。
私は彼を見ました。
——あの目の色です。
どす黒く濁ったような色で、
水がにじみ出ているような、あの目。
口は引きつり、
耳も、もう……あんなふうでした。
彼はそこに横たわっていました。
あの酸素——
酸素テントの下で、
ああして横たわっていたのです。
……そして、その光景を、
私は、じっと見ていたのです。

65 私は手を伸ばして、
酸素テントの中に手を入れ、
彼の手を握りました。
すると、あの振動が伝わって来たのです。
私は彼を少し揺すって言いました。

しかし、こう続けました。
「あなたも父親でしょう？」
私は答えました。
「はい、そうです。」

48 彼は言いました。
「考えてみてください。
あそこにいる母親たちの赤ん坊は、今すぐ死ぬわけではありません。」
「それぞれに病はあるでしょう。
しかし、私の娘は肺炎なのです。」
「私が呼べる最高の専門医が、
あと三時間ほどしか生きられないだろうと言いました。」
私は言いました。
「それでも、私は三時間ではそこへ着けません。」
すると彼は言いました。
「でも、ブラナム兄弟、
私は自分の立場や権限を使って、
あなたに圧力をかけようとしているのではありません。」
——モーガン氏は、本当に立派な人物でした。
彼は、長い間、私たちの集会に付き従って来た人です。
そうでしょう、キッドソン兄弟？
彼は続けて言いました。
「ただ来ていただけるなら……」

あなたには分からないでしょう。」

そして言いました。

「先生、

あそこにいる母親たちの赤ん坊は、

一晩中立っていたとしても、

もう少し待てるかもしれません。」

「しかし、私の娘は、待てないのです。」

そして、静かにこう付け加えました。

「私は、ここで十二歳ほどの娘を亡くしました。

最初の娘でした。」

「癒しが私の心に来るまで、

本当に長い時間がかかりました。」

49 私は、

あの父親がどんな気持ちでいるかが、よく分かりました。

あの小さな子が、今まさに死にかけているのですから。

……[テープ欠落]……

すると、

「ブラナム兄弟、あなたは行けませんよ。」

「あなた自身が、もう限界じゃありませんか。」

そう言われました。

私は言いました。

「では、あなたの小さなプリムス車の後ろに

私は、そのまま歩いて行きました。

友よ……

皆さんの中には、

私を熱狂者だと裁く人もいるかもしれません。

しかし、私の裁き主は神です。

私は、その方の御前に立っているのです。

私は、ただそのまま部屋に入りました。

すると、医者たちは、

あの皮肉な表情を浮かべながら、出て行きました。

中に入ると、

かわいそうに、その姉妹は、今にも倒れそうでした。

私は言いました。

「大丈夫です。

心配しないでください。」

64 私はオーバーコートを持っていなかったので、

ブラウン兄弟のものを借りていました。

そして、この——この聖書を、ポケットに差し込んでいたのです。

そのオーバーコートは、私には大きすぎました。

ただ、あまりみすぼらしく見えないように、

それに寒い日でしたから、羽織っていただけでした。

私はそのオーバーコートを椅子の上に置き、

彼女に言いました。

それでも、止めることはできませんでした。
悪魔が、地獄からどれほど多くの小鬼を送り出そうとも、
これを止めることはできなかつたでしょう。
何も、止められない。
もう、語られてしまったのです。
「主はこう言われる」と。
それは、もうそこにある。
決まったことなのです。
ああ……
あの中へ入って行ったときの気持ちは、
皆さんには分からないでしょう。
廊下を歩いて行くと、
中から看護師が出て来ました。
私は言いました。
「中に、誰かいますか？」
彼女は言いました。
「はい、医師が二人います。」
私は言いました。
「その人たちに、出てもらってください。」
——ああ……ああ……
あ那时的気持ちは、本当に言い表せません。
部屋の中には、その二人だけがいました。

横にならせてください。」
そして私たちは、
アーカンソーの道を、時速70マイルで走り抜けました。
その道中、
私はずっと祈っていました。
すると、
主の御使いが、しばらくの間、
車の中に座られたのです。
御使いは言われました。
「彼に、こう言いなさい。
『主はこう言われる (THUS SAITH THE LORD)。
前途の水は澄んで流れている。
それが、私が彼に与える言葉だ。』」
御使いが去られた後、
私は——
今ここにいるのと同じくらい、はっきりと意識がありました。
私は、
叫び、主をほめたたえ始めました。
すると、
ジョンソン兄弟が言いました。
「どうしたんですか？」
私は言いました。

「主の御使いが、ここに座っておられたんです。

ジョンソン兄弟。」

彼は言いました。

「ああ、ブラナム兄弟……。」

——皆さんもご存じでしょう、

ジョンソン兄弟は、とても立派な方です。

彼はブレーキを踏み、

泣き出してしまいました。

私は言いました。

「さあ、そのまま行きましょう。

まっすぐ進んでください。」

50 そこへ着くと——

アーカンソーの人たちは、本当に互いを愛し合う人たちです。

そして、ポール・モーガンは皆に愛されていました。

その診療所の周りには、

人々があちこちに集まっていました。

皆、

その小さな女の子の「最後の知らせ」を待つて、

一晩中そこに座っていたのです。

その子は、誰からも愛されていました。

しかし……

その中をかき分けて進んで行く時の気持ちは、

「えっ、何ですって？」

私は言いました。

「そうです。彼は生きます。」

「私は、彼の姿を言い当てたでしょう。

ほんの少し前に、幻の中で彼を見たのです。」

「彼女ではなく……

彼が生きているのです。」

すると彼は言いました。

「それじゃあ……あなたを迎えに行ってもいいですか？」

私は言いました。

「次の飛行機で来てください。

私は、そこへ行きます。」

——ここで、すべてが変わったのです。

63 [※テープ不明瞭]……その病院へ行きました。

[※不明瞭]……医者たちがそこにいました。

私は中へ入って行きました。

すると、廊下の向こうから、彼の姉妹がやって来て、こう言いました。

「まったく、なんてこと……

こんな聖霊派の説教者が、ここに来るなんて。

私の兄弟は、あの中で死にかけているのに。

恥ずべきことだわ。」

ああ、もう……。

今、あなたは備えていますか？」

彼女は言いました。

「どういう意味ですか？」

私は言いました。

「主はこう言われる。

あなたのご主人は生きます。」

「あなたは……あなたは、

それを信じますか？」

しかし、返事がありませんでした。

私はもう一度言いました。

「信じますか？」

それでも、答えは聞こえませんでした。

62 私は、そう言ったあとで……

向こうで誰かが騒いでいる声が聞こえました。

奥さんが気を失って、床に倒れてしまったのです。

すると、ケニー兄弟が電話を取りました。

「どうしたんですか、ブラナム兄弟？」

奥さんが倒れてしまいました。」

私は言いました。

「私は、こう告げたくです。

『主はこう言われる。あなたのご主人は生きる。』」

彼は言いました。

とても言葉にできません。

私は群衆の中を押し分けて進みました。

すると、一人の医師が立っていました。

入口のところでは、

これ以上中へは入れないようにしてあり、

階段まで来られる人だけが待っていました。

皆が、家族を思って待っていたのです。

その医師が私に言いました。

「あなたが、ブラナム牧師ですか？」

私は答えました。

「はい、そうです。」

彼は言いました。

「モーガン氏が、お待ちです。

部屋までご案内しましょうか？」

私は言いました。

「お願いします。」

そして付け加えました。

「その子は、まだ生きていますね。」

医師は答えました。

「ええ、生きています。」

その後――

中へ向かう途中で、インターン(研修医)に会いました。

誰かが言いました。

「こちらが、ブラナム牧師です。

モーガン氏がお待ちです。」

それで、

そのインターンが私と一緒に戻って来ました。

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、

お一人になられますか？」

私は答えました。

「できればそうしたい。

まず、ご両親に会いたいのです。」

すると彼は言いました。

「今、部屋には二人の看護師がいて、

酸素を与えています。」

51 その子には、

酸素テントを使うことができませんでした。

代わりに――

ゴム製のマスクを使わなければならなかったのです。

ここにお医者さんがおられるなら分かるでしょうが、

私はそれまで、そんな方法を見たことがありませんでした。

そのマスクを当てて、

酸素を無理に、その子の中へ押し込むのです。

彼は言いました。

「でも、ブラナム兄弟……

本当に、今にも、という状態なんです。」

私は言いました。

「それでも、奥さんを電話に出してください。」

彼は言いました。

「実は、もう奥さんには、

あなたが『彼は死ぬ』と言ったことを伝えてあります。」

私は言いました。

「それでもいい。

奥さんを電話に出してください。」

彼女が電話に出ました。

私は言いました。

「もしもし。」

そして、彼女かどうか確認しました。

「はい、そうです。」

私は言いました。

「私は、ブラナム兄弟です。」

彼女は言いました。

「はい……聞いています、ブラナム兄弟。」

私は言いました。

「でも、よく聞いてください、姉妹。

「でも、今あなたが言っているのは……？」

彼は言いました。

「はい……彼は、今まさに死にかけています。」

私は尋ねました。

「奥さんは、そこにいますか？」

「います。」

私は言いました。

「その奥さんは、茶色っぽいスーツを着て、

白いブラウスを着ることがありますか？

少し白髪交じりの方ですか？」

彼は言いました。

「ええ、そうです。」

私は続けて尋ねました。

「ご主人は、明るい色のスーツを着て、

灰色の髪で、赤いネクタイをしていますか？」

彼は言いました。

「いつもその格好です。

どうして分かるんですか？

あなたは彼を知っているんですか？」

私は言いました。

「はい、知っています。

奥さんを電話に出してください。」

すると、その子は

二、三回だけ息をして――

(ブラナム兄弟、息をする様子を示す)

……そして、また止まってしまう。

すると、またマスクを当てて――

……

また数回息をする。

そして、また落ちて行く。

すると、看護師がまたそのマスクを当て、

……

そうやって、

なんとか命をつなぎとめていたのです。

私がドアをノックしようとした時――

ああ……

すぐそばに、何かが立っておられるのを感じました。

そこに立っていたジョンソン兄弟に、私は言いました。

「ジョンソン兄弟、入らないでください。

私一人で行かせてください。」

私はドアのところへ行きました。

すると、一人の看護師がドアを開けました。

彼女は言いました。

「何のご用ですか？」

私は言いました。
「私はブラナムです。
中の方にお会いしたいのですが……」
すると彼女は言いました。
「どうぞ、お入りください。」
私は中へ入りました。
モーガン氏が言いました。
「あなたが、ブラナム兄弟ですか？」
私は答えました。
「はい、そうです。」
すると彼は、
大きな体で私を抱きしめました。
皆さんもご存じのように、
彼はとても立派で、体の大きな人でした。
彼は言いました。
「ブラナム兄弟……
私は正しく生きようとしてきました。
正しいことをしようとしてきました。」
「それなのに、なぜ神は、
私の赤ん坊を取って行かれるのでしょうか。」
私は言いました。
「興奮しないでください、モーガン兄弟。」

でも、その時、
「ケニー兄弟は、もう知っているんだ。」
そう分かりました。
私は言いました。
「はい。」
それから、こう尋ねました。
「それで……どんな知らせですか？」
61 そのとき、私ははっと気がつきました。
——あの幻は、これだったのだ、と。
すると彼が言いました。
「ブラナム兄弟、私たちは一晩中、付き添っていました。
もう今にも逝くと思っていたんです。」
「今も、皆がここにいます。」
「いつ、最後の時が来てもおかしくない、そんな状態です。」
それから彼は言いました。
「ブラナム兄弟、もしできるなら……
来年初めに、あなたがジョーンズボロへ行かれるとき、
私の妻を連れて行けるでしょうか？」
「集会に出席させてもらえませんか？」
私は言いました。
「それは、できるかもしれませんが。」
しかし、私はこう続けました。

「これは……不思議だな。」

60 ちょうどそのとき、電話が鳴りました。

私は思いました。

「ブラウン兄弟だな。迎えに来て、連れて行ってくれるんだろう。」

——ほら、いつもそうでしょう。

二、三人一緒に来てくれて。

「朝食に呼びに来たんだな。」

そう思って、受話器を取りました。

「もしもし。」

すると、相手が言いました。

「もしもし。ブラナム兄弟ですか？」

私は言いました。

「はい、そうです。お元気ですか、ブラウン兄弟？」

すると彼は言いました。

「いいえ、私はブラウン兄弟ではありません。

メンフィスの、ケニーです。」

私は言いました。

「……ああ。」

実は、その部屋番号も、

私がどこに泊まっているかも、

知っていたのは、ブラウン兄弟だけだったのです。

——分かりますか。

どうぞ、座ってください。」

私は、看護師の方へ歩いて行きました。

すると彼女は言いました。

「この酸素は、続けなければなりません。」

私は答えました。

「それで結構です。

続けてください。」

52 その小さな女の子は、こんなふうに、少しかがむようにして横たわっていました。

私はその子の上に手を置いて、父親に向かって言いました。

「お父さん、そしてお母さん、約束してくれますか。神に仕え、このことを、どこへ行っても証しする、と。」

二人は言いました。

「はい、そうします。」

私は言いました。

「恐れることはありません。あなたがたに与える“御言葉”があります。これは、私が赤ちゃんのために祈ったあと、主から来たものです。」

そう言って、その子の上に手を置き、イエス・キリストの御名を呼びました。

すると、その瞬間から、その子の鼻に酸素を当てる必要がなくなったのです。

私は振り向いて言いました。

「主はこう言われる。モーガンさん。

多くの専門医たちは、あなたの赤ちゃんは助からないと宣告しました。

しかし、主はこう言われる。あなたの赤ちゃんは生きます。」

回復します。

そして、これがあなたへの御言葉です。

一生忘れないでください。

『前方の水は、澄んで流れている。』

——その証書、ここにはありませんね？

いいえ。彼は公証人の前で署名しています。

それから私は、その建物を後にしました。

すると三日目に、その子は学校へ戻ったのです。

完全に癒され、元気になっていました。

——分かりますか。

53 さて、その次にリトルロックでのことです。

そこから、ある人のために祈りに来てほしい、と私に連絡がありました。

名前は……何と言いましたかね。あそこにいた郵便局長でした。

——メンフィスから来ている皆さんなら、私が誰のことを言っているか分かるでしょう。

背の高い人でした。

とにかく、話しているうちに思い出すでしょう。

一緒にいたもう一人の人の名前は、ケニーでした。

それは覚えています。ケニーさんです。

それで、「その人はもう死にかけているから、祈りに来てほしい」と言われたのです。

私は出かける準備をしました。

初めての飛行機での移動でした。

そう思いました。

——この、まさにこの聖書です。

私は言いました。

「主よ、今朝は、あなたの御言葉のどこを読めばよいでしょうか。」

私は主の御言葉を読むのが大好きなのです。

それで、こんなふうには手を伸ばして、

聖書の上に手を置き、

そのまま開きました。

すると、そこに開かれたのは、

イザヤがヒゼキヤのもとへ遣わされ、

「あなたの時は来た」と告げた箇所でした。

ヒゼキヤは、顔を壁に向けて、主に祈りました。

すると主は、その祈りを聞かれ、

再びイザヤに語って言われたのです。

「行って、彼に告げよ。

わたしは彼に十五年を与えた。」

——皆さん、覚えていますね。

私は言いました。

「いやあ……なんと不思議なことだろう。」

そのとき私は、

あちらの件——あの人のことを、すっかり忘れていました。

そして私は言いました。

互いに微笑み合い、
また頭を下げるのです。
そうして、そのまま……

二人は、ふっと、
部屋の中から消えていったのです。

59 それで私は起き上がって、祈りました。

そして言いました。

「神よ、私はあの二人を知りません。

あれは、どういう意味だったのでしょうか。

今日あたり、ああいう様子の人が、誰か来るのでしょうか。」

時々、私は集会の中で、ああいう人たちが入って来るのを見ることがあります。

ですから私は言いました。

「もし、あの人たちを見たら……」

皆さん、何度も聞いたことがあるでしょう。

私が行って、こう言うのを。

「主はこう言われる。立ちなさい。」

——なぜなら、神がすでに語っておられるからです。

語られたことは、必ず起こらなければならない。

私は思いました。

「きっと、ああいう人が来るんだろう。」

それで私は、

「さて、聖書を読もう。」

それで、向こうへ行く前に身支度をしていて、このスーツを着ていたときの
ことです。

そのとき、部屋の中で、まるで風が吹くような音が聞こえ始めました。

「ヒュー、ヒュー、ヒュー、ヒュー」と。

(※ブラナム兄弟、身振りで表現)

私は思いました。

「いやあ、今日はずいぶん風が強いな。」

シャツを着て、上着を羽織りながら、私は賛美歌を歌っていました。

そのとき、ブラウン兄弟が、私を向こうへ送り出す準備をしてくれていたの
です。

「その人は、もう死にそうなんだ」と言いながら。

54 それから、その人は、あのドクター・ジェネラル・パットンのところへ行っていた
人でした。

皆さん、覚えていますか。

その医者をして、この人のために、飛行機で呼び寄せたほどだったのです。

医師たちは口をそろえて言っていました。

「もう助からない。肺炎だ。」

しかも、喘息を伴った肺炎——喘息性肺炎でした。

「もうだめだ。回復の見込みはない。」

そう言われていたのです。

私はコートを着ようとしていました。

ブラウン兄弟が、もうすぐ来るだろう、そう思いながら。

ところが、飛行機の都合がつかないかもしれない、という話になりました。

すると、ケニーさんが、非常に速い車でやって来たのです。

彼は、その町の法執行機関の役人か何かでした。

ご存じのように、赤色灯とサイレンを付けた車を持っていたのです。

彼は、もし飛行機に乗れなかった場合に備えて、

私を迎えに来られるよう、早めに出発して来ていたのです。

55 それで私は見ると、部屋の中で、渦のようなものが回っているのが見えました。

私はひざまずいて祈りました。

すると、そのとき、主の御使いが語られたのです。

こう言われました。

「そこへ行ってはならない。彼の時は来た。」

私は立ち上がり、着ていたコートを脱ぎました。

しばらくすると、ドアのところの人に人が来ました。

ケニー兄弟が駆け込んで来て言いました。

「あなたが、ブラナム兄弟ですか？」

私は言いました。

「そうです。」

そのとき、ブラウン兄弟も一緒でした。

——皆さんはブラウン兄弟をご存じでしょう。

この証しについて手紙を書きたい方がいたら、彼に聞いてもらえばいい。

ブラウン兄弟は私に腕を回して言いました。

「私は、もう分かっていました。信仰があつたんです。」

そして言いました。

「彼はポール・モーガンの個人的な友人なんです。

皆さん、これは本当に自然なことだったんです。

——神が私の裁き主です。

ちょうど今、私がここに立って、皆さんを見ているのと同じくらい、はっきりと。

私は言いました。

「これは、どういうことだ？」

すると気がつくと、

私はどこかの教会の、演壇の上に立っていたのです。

私は……

いや……

本当に……

それで、自分の指を噛んでみました。

「これは夢なのか、それとも、どうなっているんだ？」

そう思ったのです。

そのとき、私は分かりました。

——これは夢ではない。

幻(ビジョン)だ。

私はそれを見つめていました。

すると、ちょうどその瞬間に、それが……

だんだんと薄れていきました。

その二人が、互いに笑い合っているのが見えました。

そして、私のほうに向かって、

こんなふうには、軽く頭を下げながら、

とても悲しそうな表情をしていました。
私は身を起こしながら思いました。
「いったい、どうやってこの人は入って来たんだろう。
ドアは鍵がかかっているし、鍵はここにある。
それなのに、この女性がここに座っている。」
それで私は起き上がりかけて、
「ご婦人……」
と声をかけようと思いました。
すると、そのときです。
こちらを見ると、そこにもう一人、男の人が座っていました。
背の高い男性でした。
明るい色のスーツを着て、
髪は灰色。
赤いネクタイをしていました。
その人も、同じように、とても悲しそうな表情をしていました。
すると、その女性が彼のほうを見て、
彼は、かすかに微笑んだのです。
そして二人は、互いに目を合わせ、
静かに、そんなふうに見つめ合っていました。

58 私は思いました。
「これは……一体、何なんだ？」
それで、私はずっと身を起こしました。

彼は、モーガンの娘さんのことも知っている。」
さらに、
「今はもう意識がありませんが……
それでも、彼は私の親友なんです。」
私は言いました。
「しかし、あなたが戻られるころには、
その友人は、もうこの世を去っているでしょう。
主はこう言われる。
その人は死にます。」

56 それで、彼はほとんど……
[※テープ不明瞭]
私は言いました。
「聖霊が、ここへ行ってはならないと、私に警告されたのです。
ほんの少し前、この部屋で、はっきりと語られました。」
すると彼は言いました。
「でも、ブラナム兄弟……」
「奥さんが……」
「彼らはね、大きな教会から、今ちょうど自分たちの教会へ移って来ているところなんです。」
「もしあなたが来てくれたら……ほんの少しでも……」
「それだけで、奥さんにとっては、どれほど意味があるか……」
私は言いました。
「申し訳ありませんが、私はどうすることもできません。」

神の御心に逆らうことはできないのです。

私は行けません。」

彼は言いました。

「それじゃあ……私の親友は死ぬということですか？」

私は言いました。

「あなたが戻られるころには、たぶん、もう亡くなっているでしょう。」

それから私は尋ねました。

「ところで、何時ごろ戻られますか？」

彼は言いました。

「今夜の8時までには戻ります。」

私は言いました。

「では、朝に電話してください。私は祈っています。」

「彼のことは気にかけています。」

「亡くなった時刻も、知らせてください。」

「もし、着いたときにはすでに亡くなっていたなら、そのことも。」

「今夜は電話しないでください。私は集会に出ていますから。」

「夜中の2時か3時になるまで戻らないかもしれません。」

すると彼は、もう耐えきれなくなったようでした。

泣き出して、こう言いながら帰って行きました。

「かわいそうな、私の親友……

かわいそうな、私の親友……」

そう言いながら、泣いて去って行ったのです。

57 それで私は、その夜の集会へ行きました。

ちょうどその夜に、あの精神を病んでいた人が癒されたのです。——分かりますか。

集会から戻って、床に就きました。

戻ったのは、夜中の2時ごろでした。

そして翌朝のことです。

——ここは、よく聞いてくださいね。

あとでブラウン兄弟からも、この話を確認してもらえますから。

朝、部屋で目を覚ましたとき、私は、ただ……こんな感じでした。

そして思いました。

「おや、もう明るいな。」

それで見ると、

ベッドの横に、一人の女性が座っていたのです。

私の部屋は鍵がかかっていた。

ドアは確かに施錠してあって、鍵はここに置いてある。

それなのに、その女性がそこに座っているのです。

彼女は、薄い茶色のスーツを着ていました。

明るいブラウンのスーツです。

髪は、少し白髪が混じった灰色。

白いブラウスを着ていました——

女性の服の名前は何と云うんでしたかね。

ドレスと上着が同じ色の、いわゆるスーツですね。

彼女はそこに座って、横を向きながら、